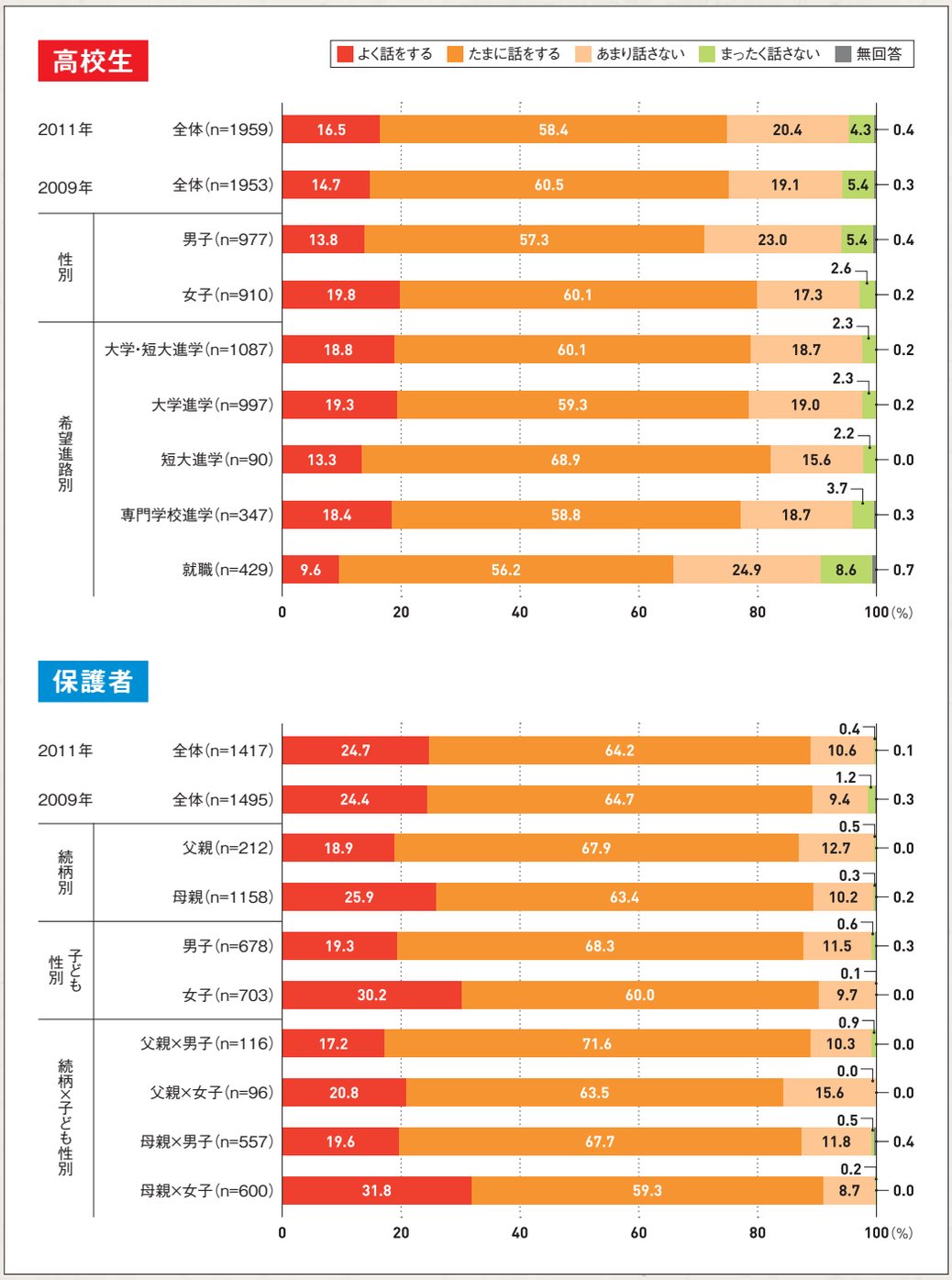
I 親子コミュニケーションの実態

01 進路について話す頻度

高校生の75%、保護者の89%が「話をする」

図1 進路について高校生と保護者は話をしているか （全体／単一回答）



高校2年生秋の時点で卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に、高校生の17%が「よく話をする」と回答（図1）。「たまに話をする」58%を合わせ75%が会話している。前回09年と変動はない。性別にみると女子は男子よりも「話をする」割合が高く、希望進路別では就職希望者は大学・短大進学希望者、専門学校進学希望者に比べ「話をする」が少ない傾向。

同性の親子間で会話が特に活発

同様に保護者にも子ども（高校生）と話しているかと尋ねると、25%が「よく話をする」。「たまに話をする」との合計89%は高校生の回答を上回る。これは過去と同様の傾向だ。その合計値を続柄×子ども性別にみると、母親×女子（娘）、父親×男子（息子）という同性どうしの親子間で割合が高く、会話が活発な印象を受ける。

02 進路について話す内容・話さない理由

話す内容は「卒業後の具体的な進路」が58%と過半数

図2 進路について保護者とどんな話をしているか （「よく話をする」「たまに話をする」「あまり話さない」の回答者／複数回答）

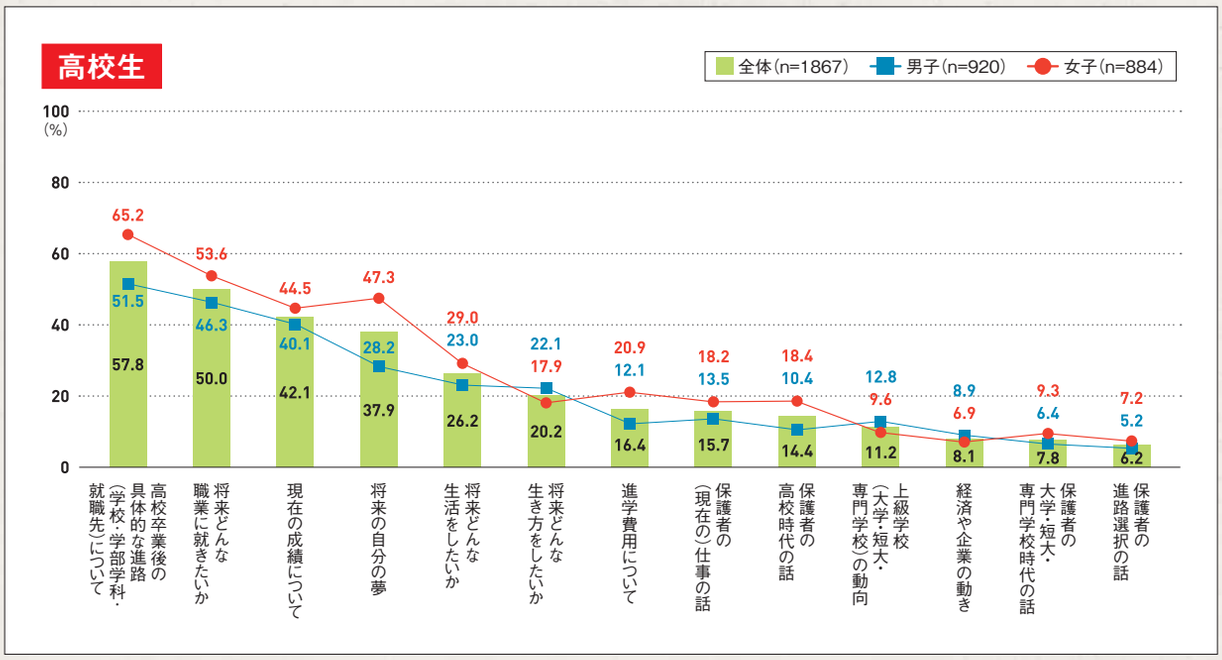
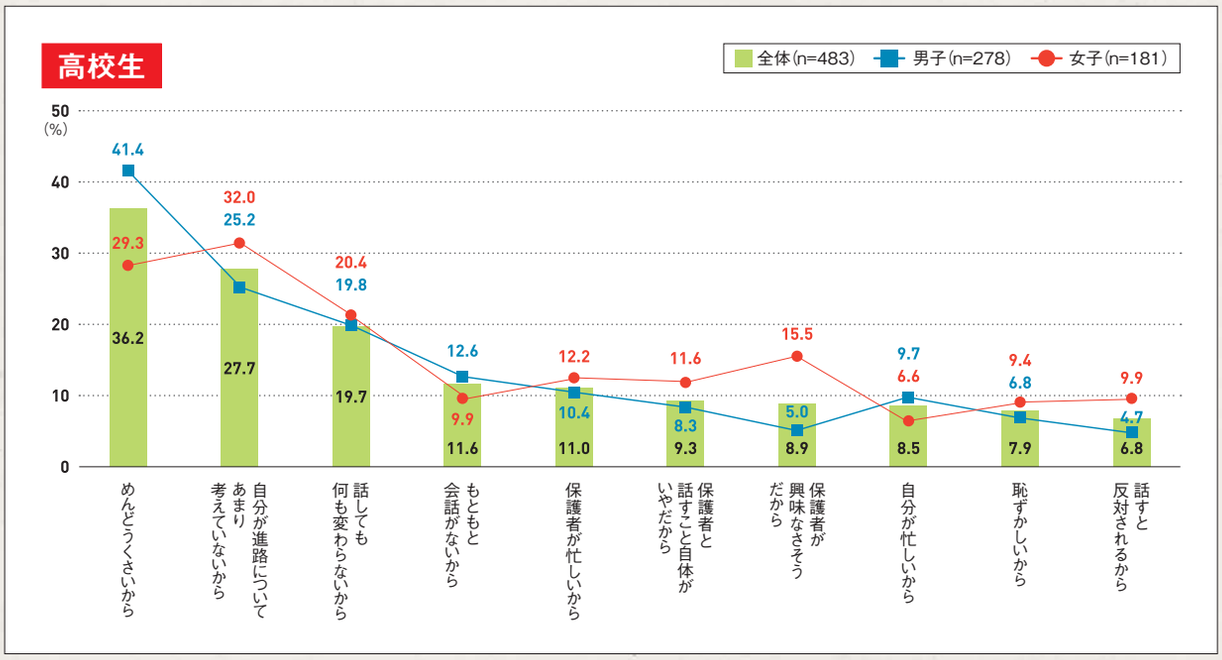


図3 進路について話さないのはなぜか （「あまり話さない」「まったく話さない」の回答者／複数回答）



10pの設問で進路について保護者と話をすると回答した高校生に、話す内容をすべて選んでもらった。「高校卒業後の具体的な進路について」が58%とトップ（図2）。次いで「将来どんな職業に就きたいか」「現在の成績について」「将来の自分の夢」などが挙がった。性別にみると女子は男子に比べスコアの高い項目が多く、会話の内容が幅広い。特に「高校卒業後の具体的な進路」「将来の自分の夢」は男子を大きく上回る。

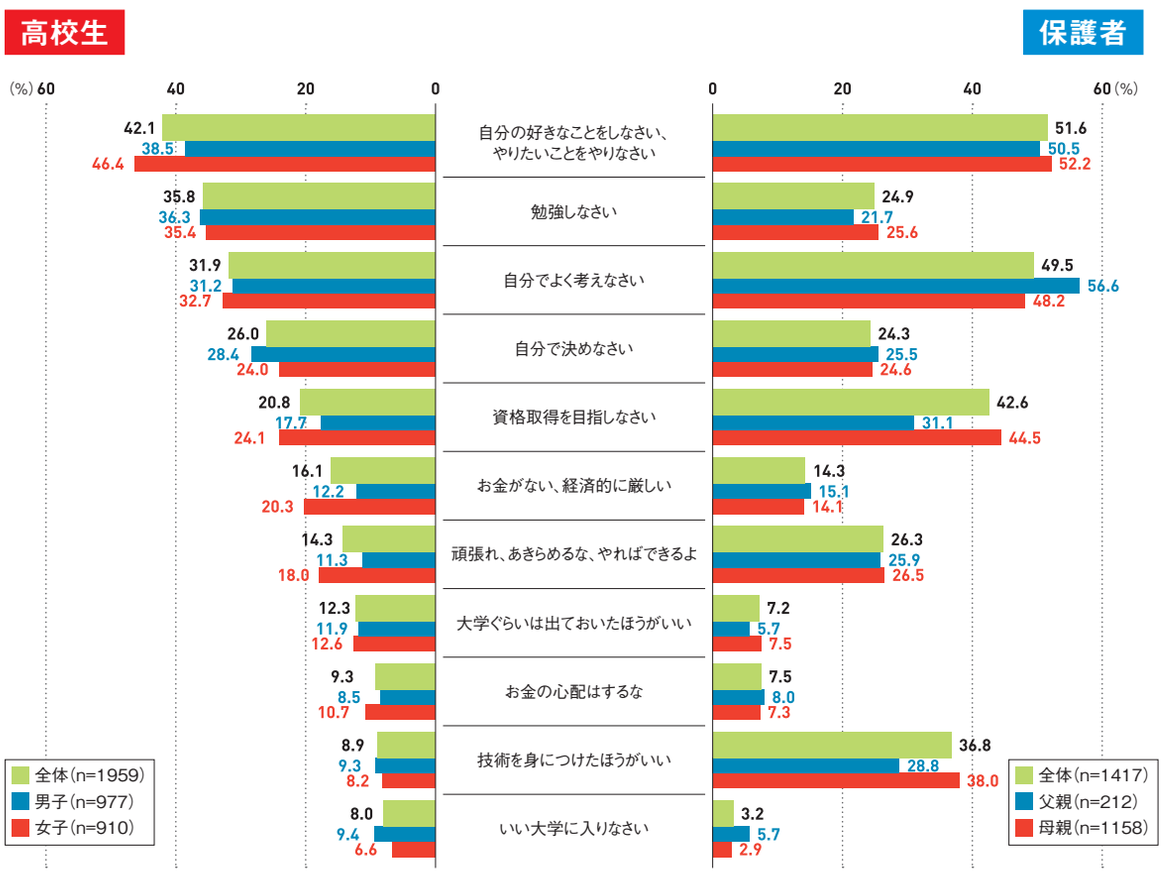
話さない理由トップは「めんどうくさいから」

一方、10pの設問で保護者と話さないと回答した高校生にその理由を質問したところ、1位が「めんどうくさいから」、2位が「自分が進路についてあまり考えていないから」と高校生自身のことが上位に（図3）。次いで「話しても何も変わらないから」「もともと会話がないから」など、保護者との関係による要因が続く。特に「めんどうくさいから」は、男子の理由として突出。女子は「自分が～考えていないから」がトップだった。

03 保護者がよく使う言葉

「自分の好きなことをしなさい」がトップ

図4 進路の話をするときに保護者はどんな言葉を使うか（全体／複数回答）



●保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

■自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい

●自分で決めたことなんだから、頑張ろうと意欲が湧く［新潟/男子/大短］
●自分の意志を尊重してくれて、ありがたいと思う［佐賀/男子/大短］
●自分の好きなことを、決めたことを自分でちゃんとやりなさいと言われ、改めて自分の道を考える［茨城/女子/就職］
●うれしいけど、意見を求めてるのに、この一言でなんにも解決しない［茨城/女子/専門］
●好きなことを選べと言われても難しい［東京/男子/大短］

■勉強しなさい

●逆にやる気失せる。でも頑張らなきゃと思う［新潟/女子/大短］
●やれって言われてもやる気にならない［青森/女子/大短］
●やらなきゃいけないのはわかってるから言わないで［新潟/男子/大短］
●しなければならないが、どう勉強すればよいのかわからない［鳥取/男子/専門］

■自分でよく考えなさい

●進路の話は自分のことなんだと強く意識させられる［東京/女子/大短］
●もっと親も自分にいろんなアドバイス等をしてほしいと思った［佐賀/男子/大短］
●自分だけでは判断できないこともある［新潟/男子/大短］

■自分で決めなさい

●自分の人生だから、自分で決めるべきなんだ［佐賀/女子/就職］
●これほど実行が難しい言葉はない［大阪/男子/大短］
●少しは一緒に考えてほしい［茨城/女子/大短］

■資格取得を目指しなさい

●確かに資格をもった職業についたほうがいいと思う［佐賀/女子/大短］
●勉強しながら資格の勉強をするのは少し難しい［愛知/男子/就職］
●自分がやりたいことじゃないやつの資格も取らなきゃいけないのか？［青森/女子/大短］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

進路の話をする時、保護者はどんな言葉を使うのか。高校生の認識と保護者の認識をそれぞれ尋ねた。上記の中からあてはまる言葉をすべて選んでもらったところ、高校生・保護者ともトップは「自分の好きなことをしなさい」。ここは共通したがその他の言葉には認識のズレが見られ、例えば高校生の2位は「勉強しなさい」だが、保護者の2位は「自分でよく考えなさい」。高校生の耳には「勉強しなさい」という言葉が残っているが、保護者はそれほど言っていないと思っているということか。「資格取得を目指しなさい」など、他にも親子で差があるものは多い。

「勉強しなさい」はやる気が失せる

また、保護者の言葉をどう感じるか高校生に感想を書いてもらった。「好きなことをしなさい」「自分でよく考えなさい」といった親の言葉には感謝の気持ちが起きる反面、アドバイスを求めたくなる高校生もいる。「勉強しなさい」という言葉には、ほとんどの高校生が反感を覚えている。

04

希望進路・悩みや不安の共有度

高校生の82%、保護者の90%が「希望進路を知っている」

図5 高校生の希望進路を保護者は知っているか （全体／単一回答）

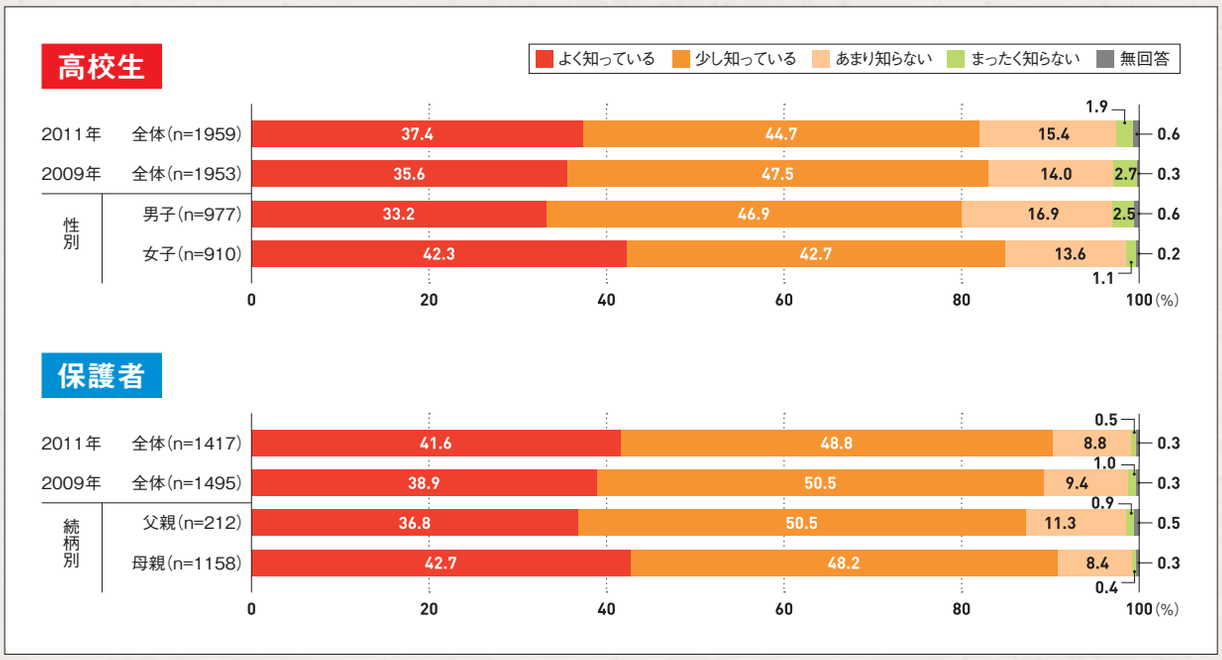
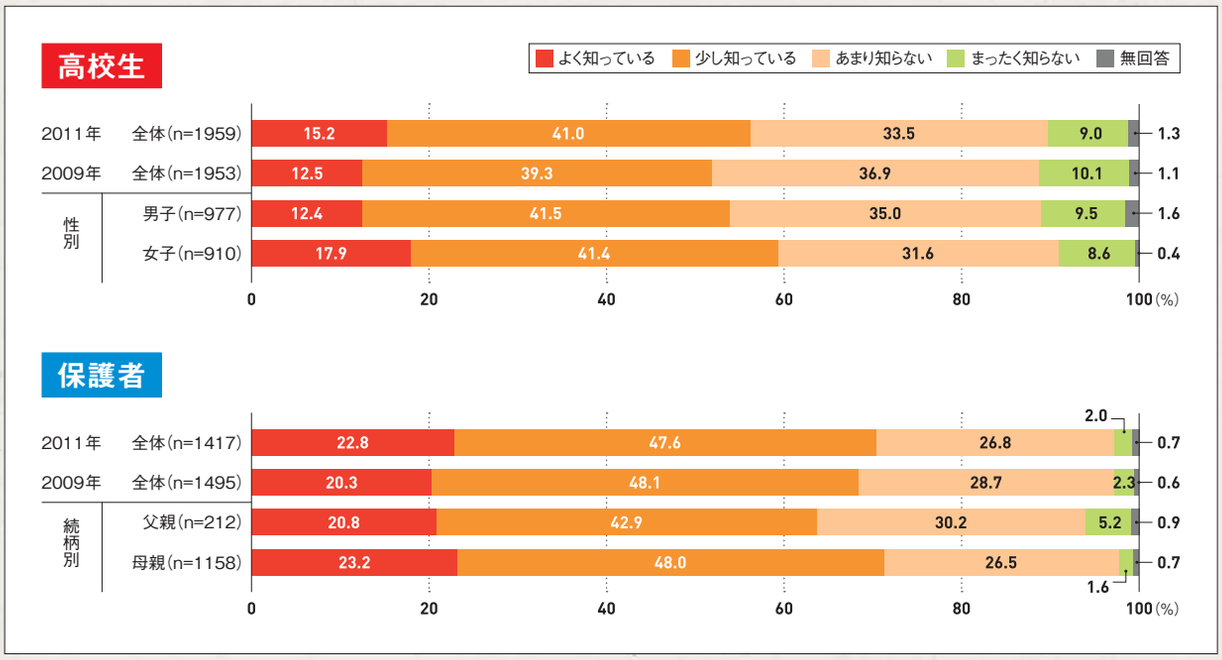


図6 高校生の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか （全体／単一回答）



高校生の希望進路を保護者はどの程度知っているか、両者に質問した（図5）。高校生の37%が保護者は自分の希望進路を「よく知っている」と回答。「少し知っている」を合わせ82%が共有できていると考えている。一方、保護者は子どもの希望進路を「よく知っている」が42%。「少し知っている」との合計90%が共有していると捉えている。高校生、保護者とも、希望進路の共有度は09年とほぼ同程度。

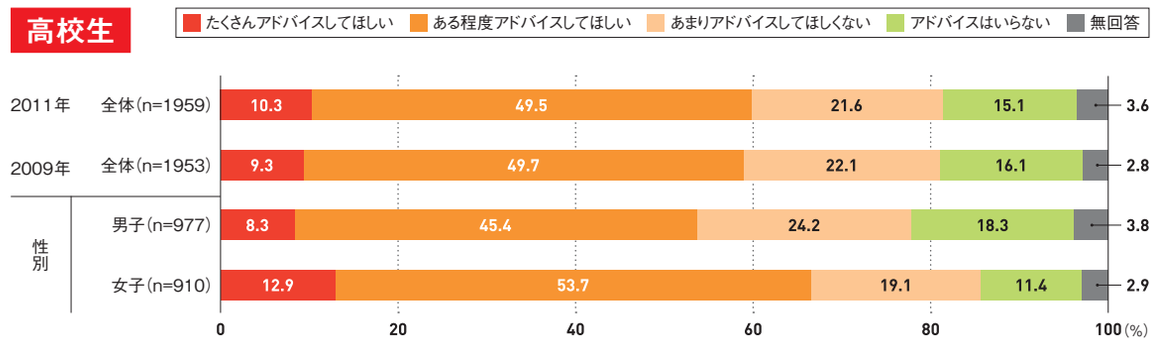
高校生の悩みや不安を保護者も共有する方向

高校生の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか？「よく知っている」「少し知っている」の合計は高校生が56%、保護者は70%という認識（図6）。両者にギャップはあるものの、合計値は09年より上昇しており、親子間で悩みや不安の共有も進みつつあるようだ。

希望進路と悩みや不安、いずれの共有状況とも、高校生は女子が男子よりも、保護者は母親が父親よりも「知っている」割合が高い。

高校生の60%が希望。保護者の77%が「アドバイスしている」

図7 進路選択について保護者にアドバイスしてほしいか （全体／単一回答）



●アドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

■たくさんアドバイスしてほしい

●人生の先輩である親の経験を生かしたいから［愛知/男子/大短］
●自分では何もわからない。一番近い存在である親が最も頼りになる［茨城/男子/大短］
●知っておくことはできるだけ多いほうがいいから［茨城/女子/就職］
●自分があまり進路について不安ばかりなので、少しでも安心できるようにアドバイスが欲しい［青森/女子/大短］
●間違った選択を自分一人だと導き出してしまうから［新潟/女子/専門］

■ある程度アドバイスしてほしい

●親の意見を聞いたうえで、自分の進路を決定したいから［新潟/女子/大短］
●自分で決めたいが、お金とか絡むので［青森/女子/大短］
●困った時にアドバイスしてほしい［佐賀/男子/大短］
●わからないことが多いし、自分では決めれない［大阪/女子/大短］
●たくさんアドバイスされるとうっとうしいが、わからなくなった時にアドバイスされると助かるから［愛知/男子/就職］

■あまりアドバイスしてほしくない

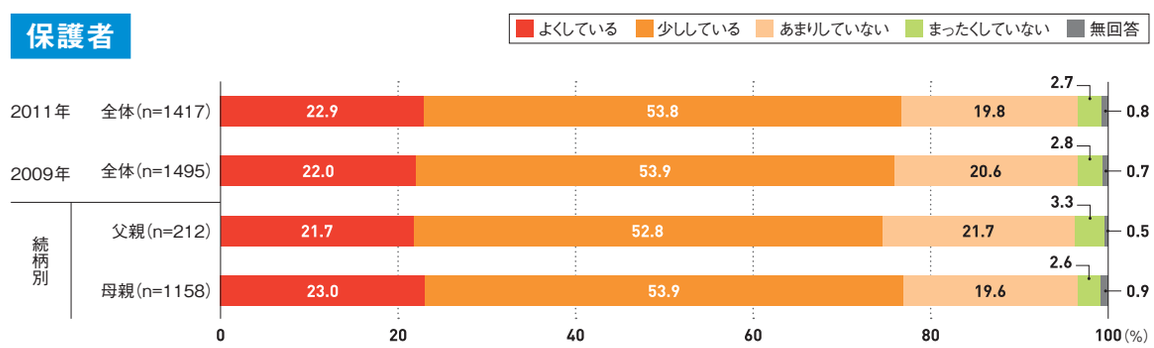
●自分は自分なりに頑張っているから、あまり口うるさくは言われたくない。勉強以外のアドバイスとかはもう少しあってもいい［新潟/男子/大短］
●自分で決めたいからアドバイスは必要ない。でも、もし行き詰まった時は少し必要になる［大阪/男子/就職］
●親の価値観を押しつけられそうな気がするから［茨城/女子/就職］
●必ず反対されるから［新潟/女子/専門］
●先生のほうが詳しいと思うから［愛知/男子/大短］

■アドバイスはいらない

●自分で決めたほうがいいと思うから［鳥取/男子/就職］
●多分、親にもわからない。聞いてもほしい答えは返ってこない［北海道/女子/専門］
●アドバイスは先生から欲しい。親は大学行ってないから信じられない［愛知/女子/大短］
●聞いていると腹が立つから［茨城/男子/大短］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

図8 進路に関する子どもの悩みや不安について相談に乗ったりアドバイスしたりしているか （全体／単一回答）



進路選択について保護者からアドバイスしてほしいかという質問に、高校生の10%が「たくさんしてほしい」（図7）。「ある程度してほしい」を合わせ60%がアドバイスを希望。性別では女子の希望が多く、7割近い。

「押しつけ」や「反対」ならばいらない

アドバイスしてほしい内容や理由を尋ねると、アドバイスを希望する高校生ほど保護者を頼っている様子や、進路選択にあたっての不安が垣間見える（上記コメント）。

反対にアドバイスがいらない理由のなかには「口うるさい」「押しつけられる」「反対される」などの言葉が並び、アドバイスとは言い難い保護者の言動には反発する様子がうかがえる。

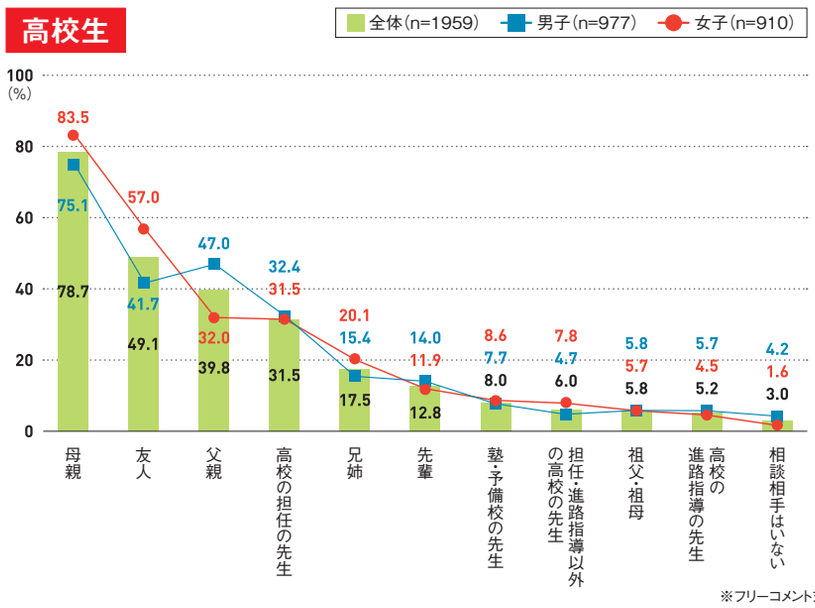
一方、進路に関する子どもの悩みや不安にアドバイスしているか保護者に質問したところ、「よくしている」23%（図8）。「少ししている」を合わせると、父母とも7割以上がアドバイスしていると考えている。

06

進路選択における相談相手と影響力

相談相手も、影響を受けるのも、「母親」がトップ

図9 高校生は進路について誰と相談しているか 上位10項目（全体／複数回答）



●一番の相談相手と、そう思う理由【高校生】

■母親

●一緒にいる時間が長くて、自分のことをよくわかってくれているから［新潟／男子／大短］

●いろいろと聞いてくれて、一緒に考えてくれる［青森／女子／就職］

■友人

●一緒に頑張っていて、励みにもなるから［鳥取／男子 ／大短］

●気軽に話せるし、似たようなことを考えているから［東京／女子／専門］

■父親

●一番身近な社会人だから［新潟／男子／就職］

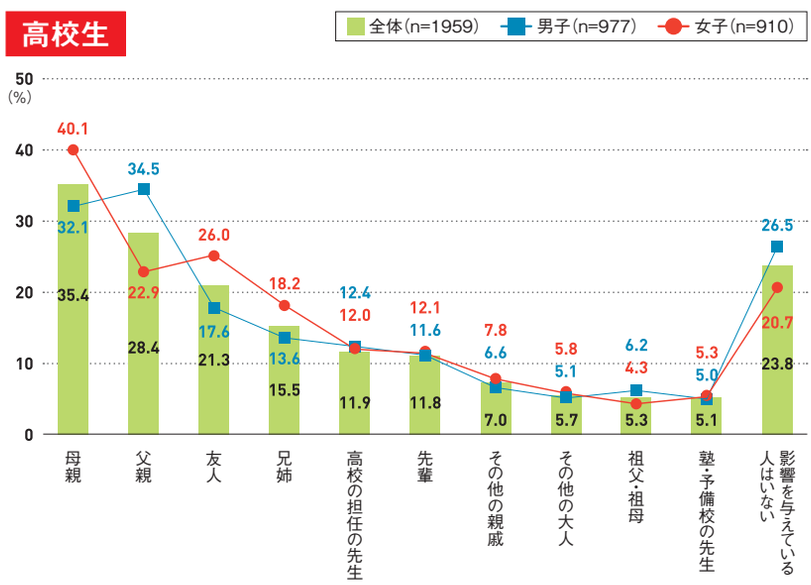
●どこに行くにも親に迷惑はかかるのでちゃんと話す［北海道／女子／専門］

■ 高校の担任の先生

●学力や進路について詳しいと思ったから［大阪／男子／就職］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県／性別／希望進路］

図10 高校生は進路について誰から影響を受けているか 上位10項目（全体／複数回答）



●一番影響を受けている人と、そう思う理由【高校生】

■母親

●進路のことについてよく聞かれるから［鳥取／男子／専門］

●言っていることがすごくわかるから［東京／女子／大短］

●家計をいろいろやり繰りしているから［佐賀／女子／就職］

●親の働く姿を見て、なろうと決めたから［北海道／女子／専門］

■父親

●家族で父親が一番権限があるから［青森／女子／大短］

●政治・経済のことでよく話をするから［佐賀／男子／大短］

●立派に働いているから［大阪／男子／大短］

●いろいろと仕事の話をしてくれるから［大阪／男子／就職］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県／性別／希望進路］

高校生は進路について誰と相談しているか質問したところ、「母親」が79％と突出（図9）。「友人」49％、「父親」40％と続いた。性別でも、男女とも「母親」がトップ。男子は2位に「父親」、女子は「友人」が続く。一番の相談相手である理由を尋ねると、「母親」は一緒にいる時間が長く自分を理解しているといった〝親近感〟、「父親」は保護者・社会人としての〝信頼感〟がそれぞれ多く挙がった。

相談相手の2位は「友人」影響力の2位は「父親」

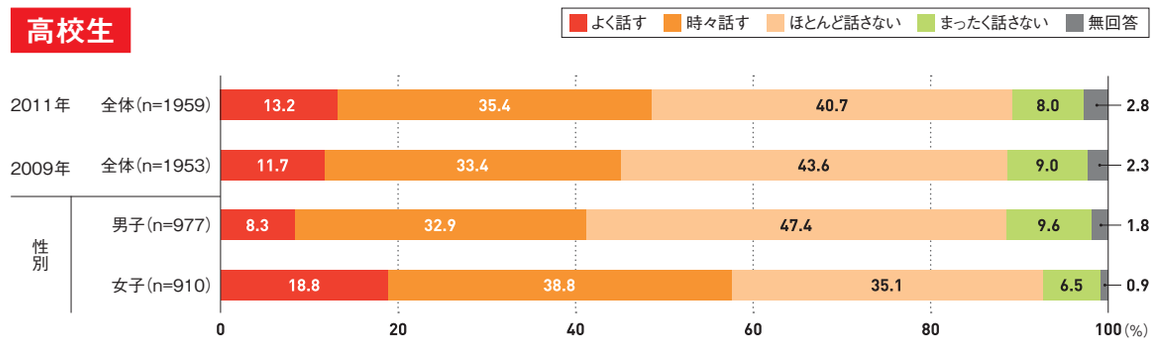
また、進路について影響を受ける相手としても「母親」が最も多く35％（図10）。「父親」が28％で2位。「影響を与えている人はいない」が3番目に多かった。男子は「父親」、女子は「母親」がそれぞれ最多で、同性の保護者からの影響が強い。

影響力の理由としては、日頃から会話が活発な関係であることが前提であり、尊敬できる親の姿は影響力が強いようだ。また、保護者の職業が高校生の希望進路を決定づけているケースもみられた。

07 保護者の仕事についての会話

「保護者は仕事の話をしている」という高校生は49%、保護者は68%

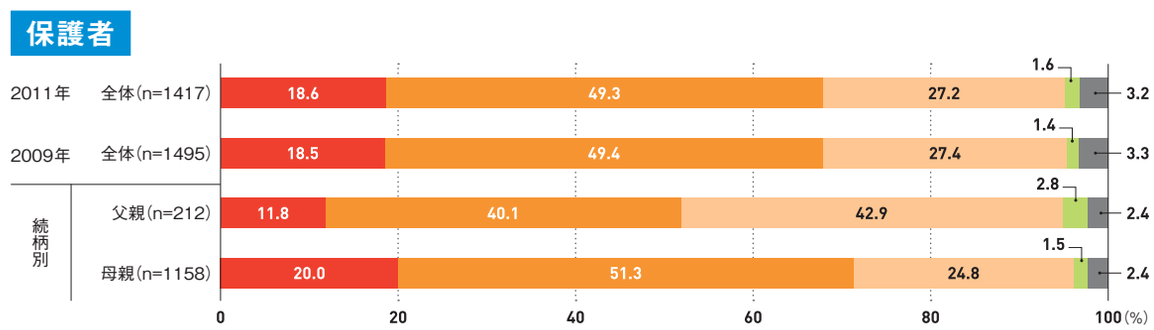
図11 保護者は子どもに仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか （全体／単一回答）



●保護者が話している内容【高校生】

●今の状況、これからの自分の世代になってからの経営方針［北海道/男子/就職］
●その会社で、父がどんな場所でどんな仕事を受け持っているのか［愛知/女子/大短］
●仕事で辞めていった人たちや上司の話［青森/女子/大短］
●職場で失敗したことや人間関係のこと［愛知/女子/大短］
●親の会社の出世制度、試験等［新潟/女子/大短］
●自分の仕事内容とこれから必要だと思われる資格等について［青森/男子/大短］
●取引先の人の話や材料の原産地はどこかという話をよくする［佐賀/男子/就職］
●締め切りがいつか、今はどんなことをやっているのか、アプリケーションの使い方［東京/女子/大短］
●帰りが遅いのでなんかあったのか、とか［愛知/男子/専門］
●仕事でどんなお客に会ったのかというような話［佐賀/男子/大短］
●愚痴を言ってくるのを聞かされて、それに対して意見する［愛知/男子/就職］
●仕事の苦労とその後の達成感［茨城/女子/大短］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］



●子どもの職業選択の際に保護者の経験から伝えたいこと【保護者】

●自分自身がやりたいことをして収入を得るのが一番幸せなこと［佐賀/父親/女子］
●自分自身でよく考え、選択することの大切さ［新潟/父親/女子］
●やりがいを見いだせる職業を選ぶこと［愛知/父親/男子］
●今の勉強が将来自分のなりたい職業の選択肢を広げる［茨城/父親/男子］
●間違えたと思えばやり直すことができるもの［鳥取/父親/男子］
●社会に出ると理不尽なこともよくあるが、辛抱も必要［青森/父親/男子］
●自分の納得のできる道を選んでいってほしい［茨城/母親/女子］
●あきらめない。その目標に向け、やればできる!!［青森/母親/男子］
●一生続けられる仕事ができるのが良い［大阪/母親/女子］
●お金をかせぐのに楽な仕事はないし、世の中は甘くない［北海道/母親/男子］
●どんな仕事でも、楽しさや苦労があること［愛知/母親/男子］
●石の上にも3年。すぐやめないこと［北海道/母親/女子］
●続けることの大変さと大切さ［青森/母親/女子］
●楽な仕事はないけれど、働くことは誰かのためになる［青森/母親/男子］
●人間関係は必ずついて回る。時には我慢も必要［佐賀/母親/男子］
●資格をとって一生生かす［北海道/母親/男子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子どもの性別］

保護者は自身の仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか、高校生と保護者それぞれに質問した（図11）。高校生は「よく話す」、「時々話す」を合わせ49%が話を聞いている。女子は58%だが、男子は半数未満。

保護者が話している内容を具体的に尋ねると、勤務先の経営状況や人事制度などのほか、「失敗したこと」「取引先の人の話」「愚痴」など日々のできごとや苦労話が比較的多い印象。

父親は母親ほど仕事の話をしていない

一方、保護者は「よく話す」、「時々話す」を合わせると68%。母親71%、父親52%と、仕事をしている人の比率が低いと思われる母親のほうが仕事についての会話が明らかに多い。

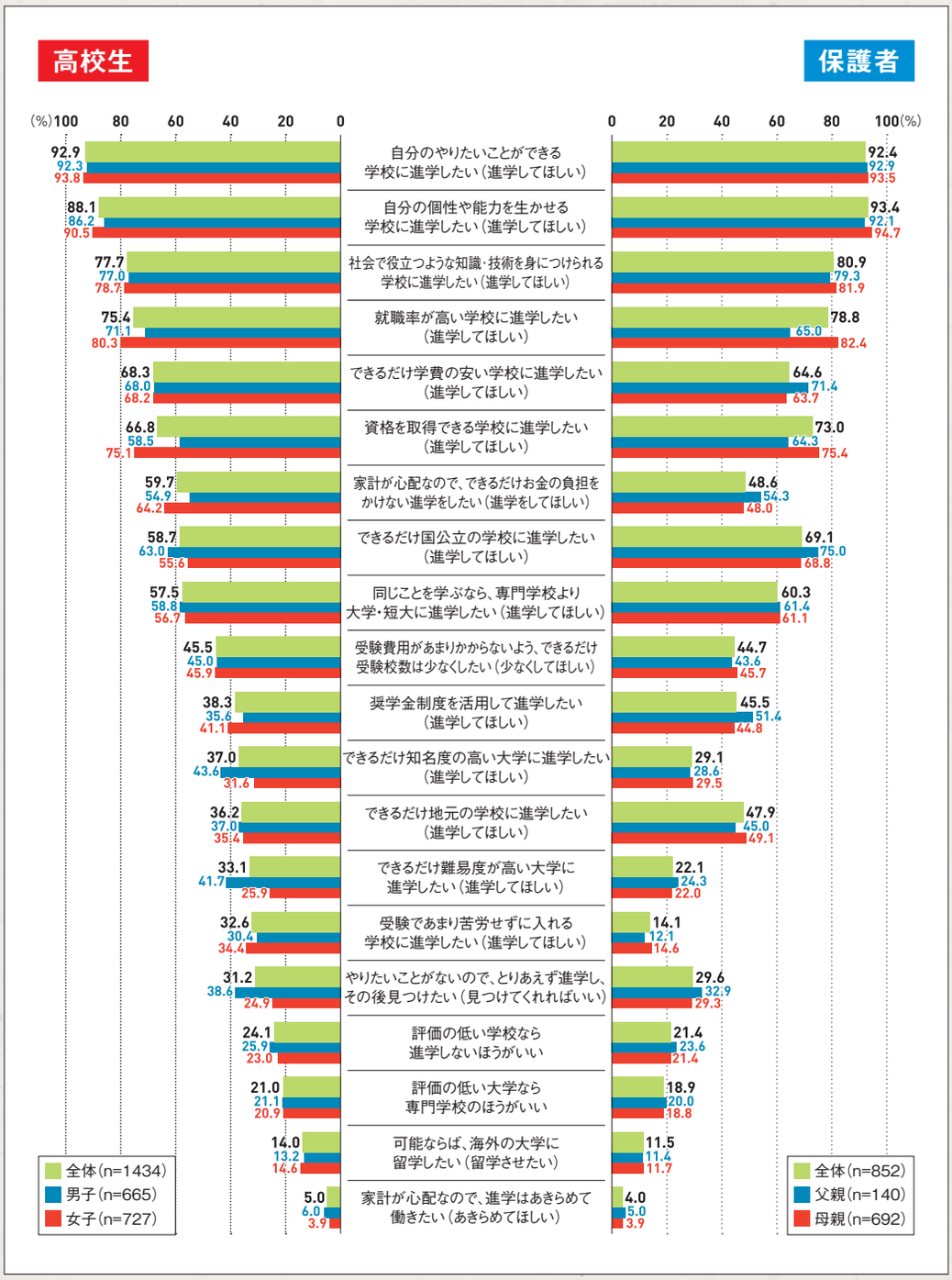
子どもの職業選択の際に自分の経験から伝えたいことを尋ねたところ、「やりたいこと」や「やりがい」を見いだすことの大切さや、「世の中は甘くない」という厳しさ、「人間関係」の重要性など豊富な人生経験に基づくさまざまなアドバイスが挙がった。

Ⅱ 進学・職業に関する考え

08 進学についての価値観

「自分のやりたいことができる学校」が高校生、保護者とも1位

図12 進学についてどんな価値観をもっているか 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の割合（進学希望／各項目単一回答）



進学希望の高校生と、子どもの進学を希望する保護者に、進学に関する上記の価値観（20項目）についてそう思うかをすべて答えてもらった（図12）。高校生の「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計値が高かったのは、「自分のやりたいことができる学校に進学したい」93%、「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」88%、「社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい」78%、「就職率が高い学校に進学したい」75%という順。

「やりたいこと」「個性や能力」「社会に役立つ」「就職率」を重視

保護者の上位もこのとおりの順位で、4位までは高校生と同じ結果だった。以降の5位「資格を取得できる学校に進学してほしい」、6位「できるだけ国公立の学校に進学してほしい」などは高校生の回答よりも上位に挙がり、若干の違いが見られた。

高校生の65%が「就きたい職業がある」

図13 高校生には将来就きたい職業があるか （全体／単一回答）

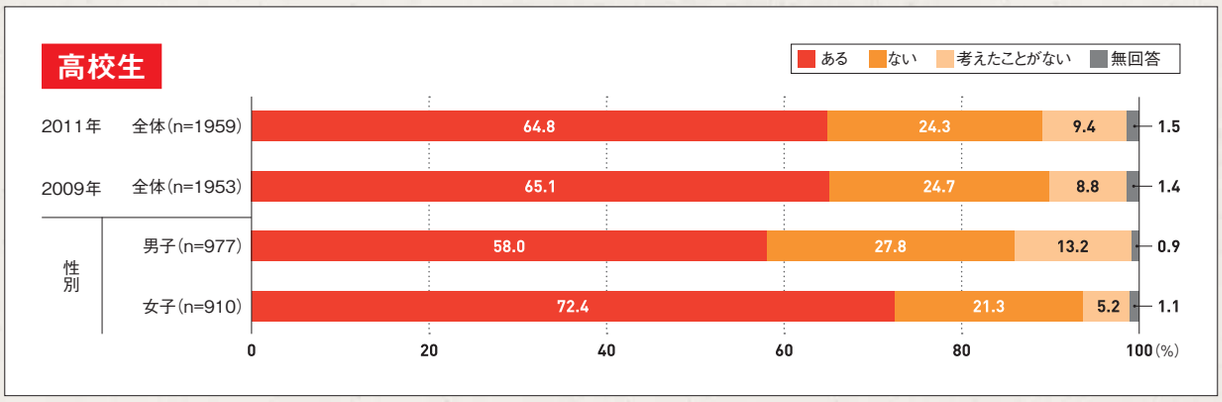


図14 高校生はどんな職業に就きたいか （就きたい職業が「ある」の回答者／単一回答）

高校生

全体（n=1269）

2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(2)	公務員（国家・地方）	10.0
2	(5)	保育士・幼稚園教諭	6.5
3	(3)	教師	6.4
4	(4)	看護師	5.8
5	(7)	技術者・研究者	4.3
6	(23)	医師・歯科医師・獣医	3.9
6	(6)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	3.9
8	(8)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.6
9	(1)	製造・加工・組立などのモノづくり	3.3
10	(18)	事務	3.0
11	(13)	理学療法士・作業療法士	2.7
12	(19)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.5
13	(10)	ゲーム関係	2.4
13	(15)	薬剤師	2.4
15	(23)	会社員	1.7
16	(20)	グラフィックデザイナー・ＣＧデザイナー	1.6
16	(11)	美容師・理容師	1.6
16	(16)	管理栄養士・栄養士	1.6
16	(32)	心理カウンセラー	1.6
20	(27)	ジャーナリスト・編集者・ライター	1.4
20	(9)	整備士	1.4
20	(16)	トリマー・動物関連	1.4

男子（n= 567）

2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(2)	公務員（国家・地方）	14.1
2	(5)	技術者・研究者	8.1
3	(4)	教師	7.6
4	(1)	製造・加工・組立などのモノづくり	6.9
5	(7)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	5.3
6	(6)	ゲーム関係	4.4
7	(16)	医師・歯科医師・獣医	3.7
7	(9)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.7
9	(10)	理学療法士・作業療法士	3.5
10	(3)	整備士	2.8

女子（n= 659）

2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(1)	看護師	10.2
2	(2)	保育士・幼稚園教諭	9.9
3	(5)	公務員（国家・地方）	6.7
4	(3)	教師	5.6
5	(10)	事務	4.7
6	(19)	医師・歯科医師・獣医	4.1
7	(6)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.6
8	(14)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.5
9	(15)	薬剤師	3.0
10	(10)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.7

●その職業に就きたい理由【高校生】

■公務員

●人のために働けて収入も安定しているから［佐賀/男子/就職］
●安定していて、周りの力になってあげられるから［青森/女子/大短］
●地域や国に生きる人のために働きたいから［北海道/男子/大短］

■保育士・幼稚園教諭

●子どもが好きで、自分がたのしいと思えるから［北海道/女子/専門］

■教師

●よく知っている職業であり古くから関心があったから［茨城/男子/大短］
●あこがれの先生のようになりたいから［新潟/女子/大短］

■看護師

●やりがいがあって大変そうだけど、人の役に立てる仕事だと思うから［佐賀/女子/専門］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

高校生に将来就きたい職業があるか質問すると、65%が「ある」（図13）。具体的な職業は「公務員」が最も多く、「保育士・幼稚園教諭」「教師」が続く（図14）。男女とも「公務員」「教師」が上位5位以内に挙がった。男子はこのほか「技術者・研究者」「モノづくり」、女子は「看護師」「保育士・幼稚園教諭」などが人気だ。

「公務員」「教師」「看護師」などが親子とも人気

目指す人やあこがれている人の有無を聞くと、29%が「いる」（図15）。そのうちの26%が目指す人に保護者を挙げており、「父親」が15%、「母親」が11%（図16）。

一方、保護者に子どもに就いてほしい職業があるか質問すると、67%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」と回答（図17）。「ある」は24%で09年より7ポイント増加。「ある」という保護者が就いてほしい職業としては「公務員」が突出。以下「看護師」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「保育士・幼稚園教諭」など国家資格が必要な職業が上位を占めた。

図15 目指している人やあこがれている人はいるか （全体／単一回答）

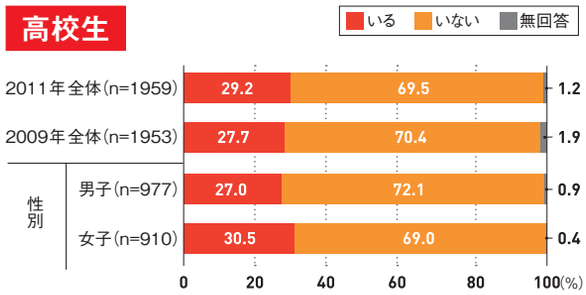
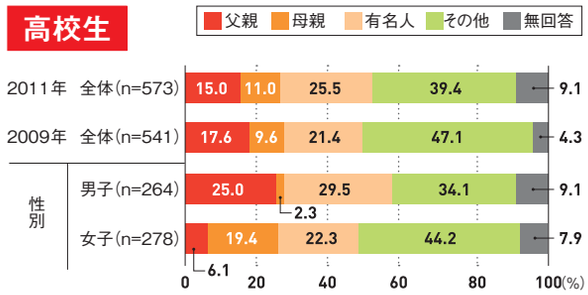


図16 目指している人は誰か （目指している人が「いる」の回答者／単一回答）



●その人を目指す理由【高校生】

■父親

●とても知識も豊富で、なんでもできる父だからです［北海道/男子/専門］
●家族を幸せにしているから［東京/男子/就職］
●仕事を一生懸命やっているから［佐賀/男子/大短］
●自分の目指す職業と同じ分野の仕事をしているから［北海道/男子/大短］

■母親

●こんなに家族のために頑張る姿がカッコイイ。驚く［青森/女子/大短］
●テキパキしていて頼れる存在だから［大阪/女子/大短］
●仕事も家事も頑張っているから［新潟/女子/就職］
●身近な存在だから［大阪/女子/大短］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

※有名人「ビル・ゲイツ」「秋元康」「川越達也」、その他：声優、ミュージシャン、俳優、作家など　※その他「兄」「姉」など親戚、小学校～高校の「先生」「先輩」、就きたい職業の人物など

図17 保護者は子どもに就いてほしい職業があるか （全体／単一回答）

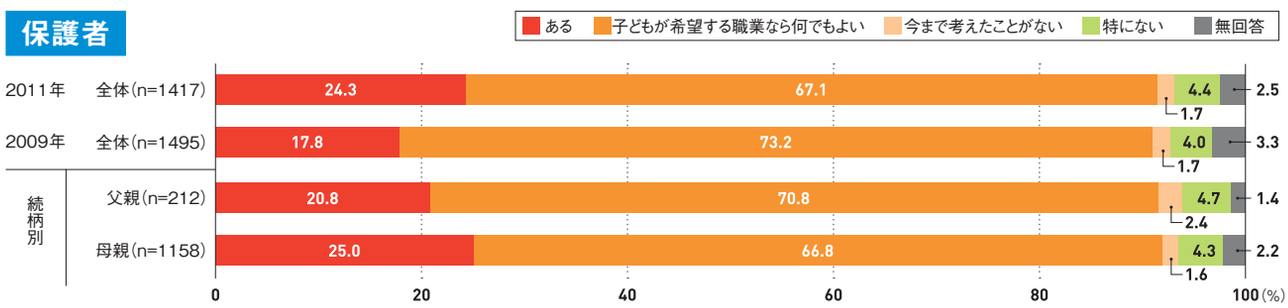


図18 保護者は子どもにどんな職業に就いてほしいか （就いてほしい職業が「ある」の回答者　／単一回答）

保護者

全体（n=345）			
2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(1)	公務員（国家・地方）	29.3
2	(2)	看護師	15.4
3	(17)	医師・歯科医師・獣医	6.1
4	(3)	教師	5.2
5	(7)	保育士・幼稚園教諭	4.9
6	(17)	事務	4.3
7	(5)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	4.1
8	(7)	製造・加工・組立などのモノづくり	3.8
9	(7)	技術者・研究者	3.5
9	(4)	薬剤師	3.5

子ども性別：男子（n=131）			
2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(1)	公務員（国家・地方）	42.7
2	(2)	教師	7.6
3	(5)	技術者・研究者	6.9
4	(3)	製造・加工・組立などのモノづくり	6.1
5	(6)	会社員	4.6
5	(10)	医師・歯科医師・獣医	4.6
7	(3)	薬剤師	3.1
8	(6)	看護師	2.3
8	(6)	理学療法士・作業療法士	2.3
10	(10)	整備士	1.5
10	(9)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.5

子ども性別：女子（n=206）			
2011年順位	2009年順位	職業	2011年%
1	(2)	看護師	22.8
2	(1)	公務員（国家・地方）	20.9
3	(4)	保育士・幼稚園教諭	7.8
4	(15)	医師・歯科医師・獣医	7.3
5	(14)	事務	6.8
6	(6)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	5.8
7	(3)	教師	3.9
7	(5)	薬剤師	3.9
9	(7)	理学療法士・作業療法士	3.4
10	(7)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.4

●その職業に就いてほしい理由【保護者】

■公務員

●解雇されることがなく、安定している。給与面でも確実に昇給がある［愛知/母親/男子］
●安定しているから。女性も男性と対等に評価してもらえるので［佐賀/母親/女子］
●仕事は大変だが、収入的に安定している［茨城/母親/男子］

■看護師

●就職率が高い。結婚、子育てにより仕事をやめても再就職できるので［茨城/母親/女子］

■医師・歯科医師・獣医

●やりがいがあり人のために役立つ職業だから就職率が高い［茨城/母親/女子］
●専門知識を必要とし、社会に貢献できる職業であるから［茨城/母親/男子］

■教師

●本人の子どものころからの夢だから［新潟/母親/女子］
●やりがいもあり、女性が働きやすい職場・職業であると思うから［青森/母親/女子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子どもの性別］

Ⅲ 進路にまつわる期待と不安

10 進路意識と将来への自信

高校生の81%が進路選択について「考えている」

図19 自分の進路選択についてどの程度考えているか （全体／単一回答）

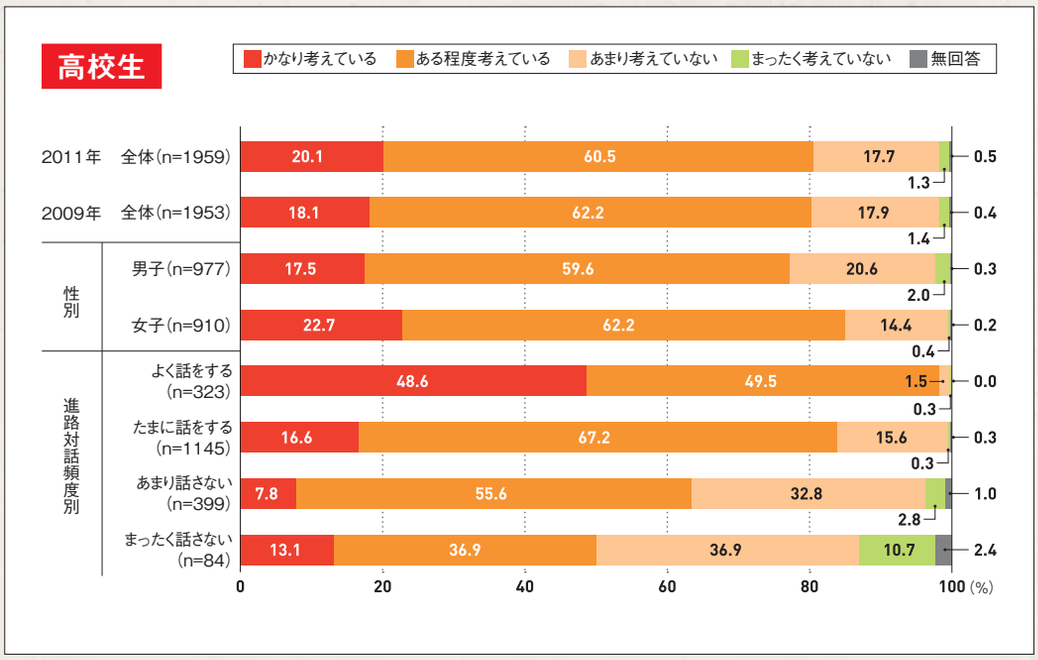
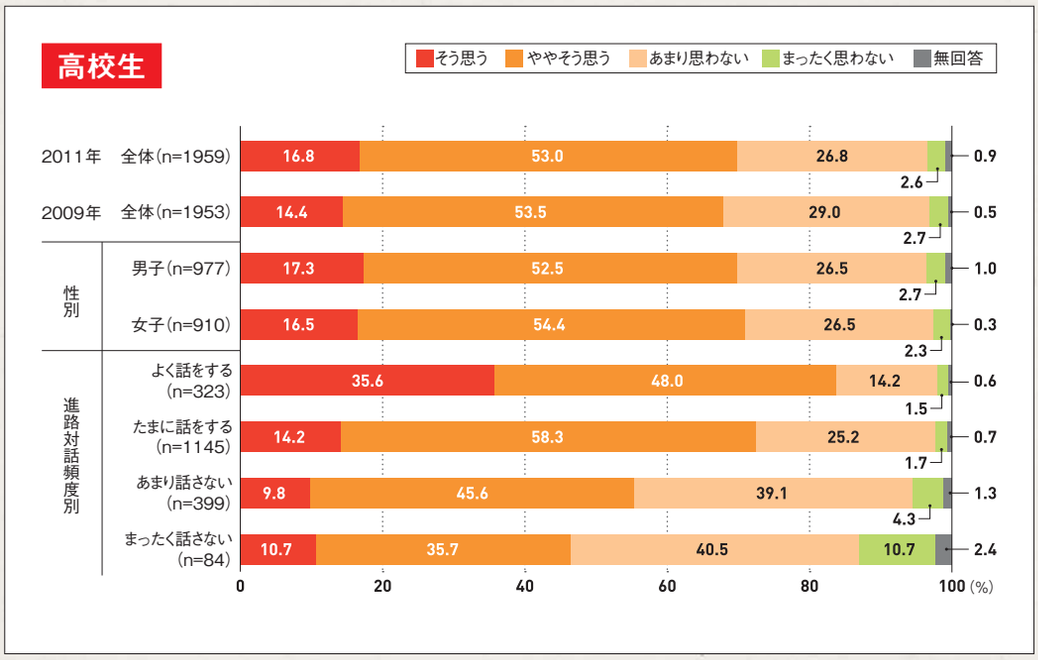


図20 自分の進路を歩んでいけそうか （全体／単一回答）



高校2年生秋の時点で進路選択についてどの程度考えているかを高校生に質問したところ、「かなり考えている」が20%、「ある程度考えている」を合わせ81%が「考えている」（図19）。女子は男子よりも「考えている」割合が高く、8割を超える。また、これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけると思うかも質問した（図20）。「そう思う」は17%、「ややそう思う」を含め70%が歩んでいけそうと思う。男女とも約7割に達した。

親子の会話が多いほど進路意識は前向きに

進路対話頻度別（進路について親子で話す頻度。10p図1参照）に見ると、話す層ほど進路選択を「考えている」（図19）、歩んでいけると「思う」（図20）のいずれも多くなり、親子の会話頻度と積極的な進路意識とは深い相関があることがわかる。

11

進路を考えるときの気持ち

高校生の48%が「不安になる」、27%が「楽しい」

図21 進路を考えるとき、高校生はどんな気持ちになるか （全体／単一回答）

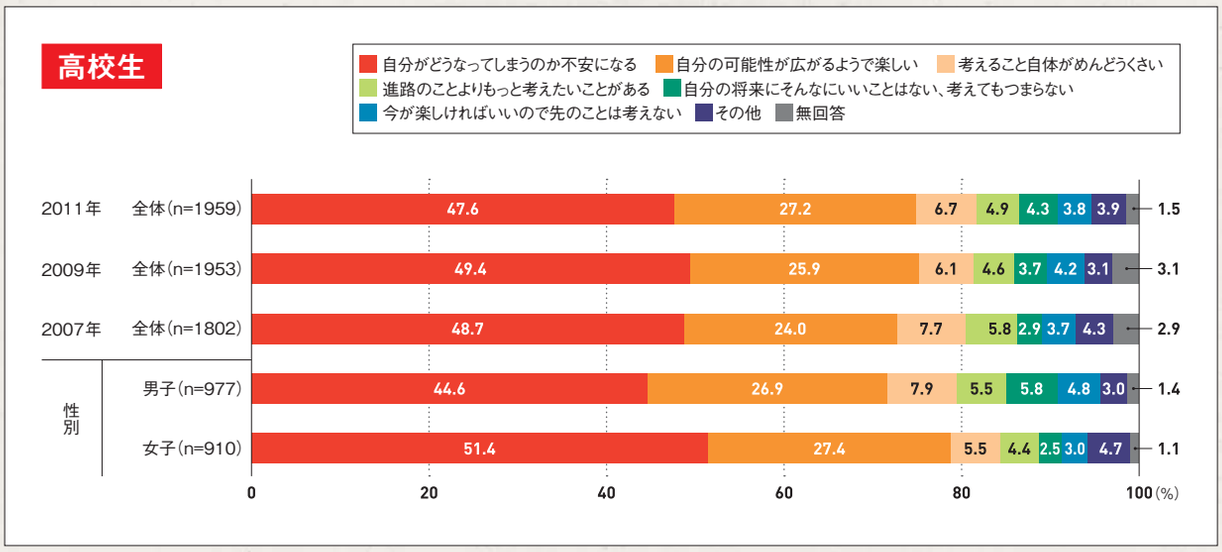
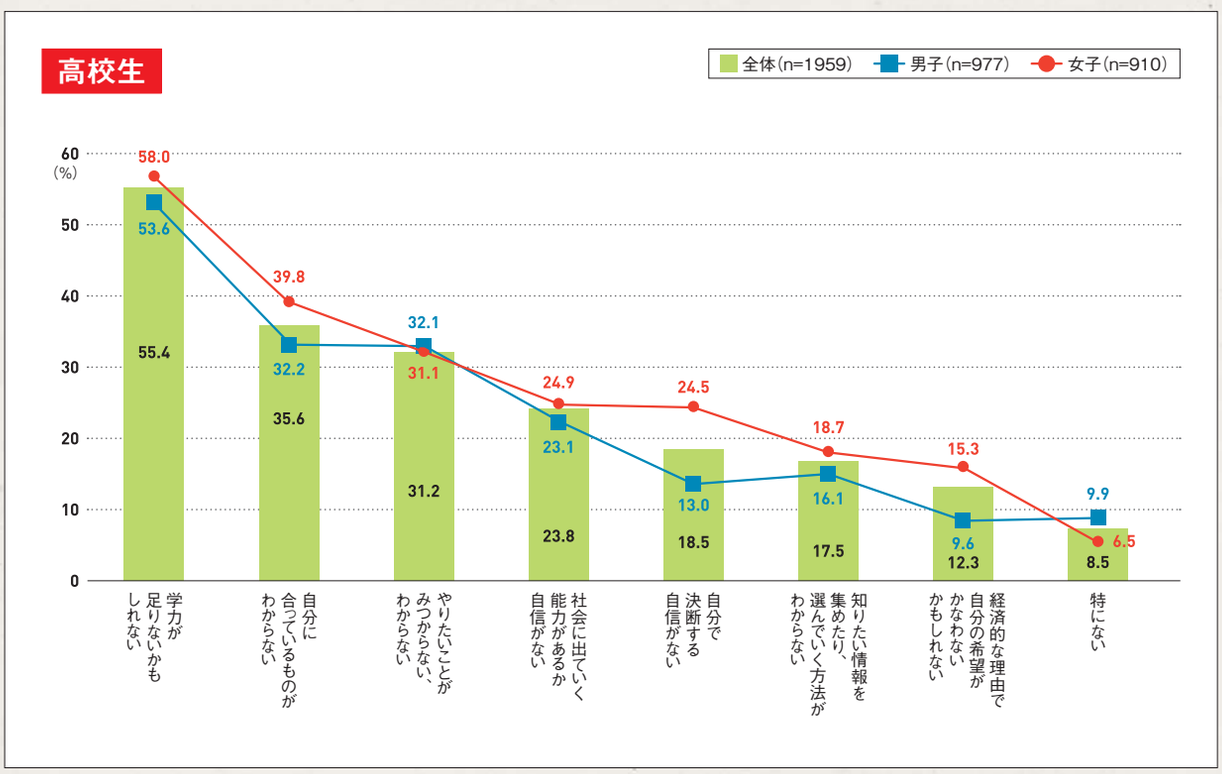


図22 進路選択についてどんなことが気がかりか （全体／複数回答）



高校生に進路を考えるとき、どんな気持ちになるか質問したところ、「自分がどうなってしまうのか不安」が最も多く48%（図21）。次いで「自分の可能性が広がるようで楽しい」が27%。07年以降、「～不安になる」はほぼ半数で推移している。一方、「～楽しい」は微増の傾向といえるかもしれない。性別に見ると、女子は「不安になる」が男子に比べ多い。

最大の気がかりは「学力不足」

さらに、進路選択についてどんなことが気がかりか、上記項目からすべて選んでもらったところ、「学力が足りないかもしれない」が突出し55%（図22）。次いで「自分に合っているものがわからない」「やりたいことがみつからない、わからない」と、適性や目標がわからないという回答が続く。性別に見ると、「やりたいことがみつからない」は男女とも同程度だが、そのほかの項目はいずれも女子のほうが高く、気がかりな内容が幅広い。特に「自分で決断する自信がない」は男女差が大きい。

高校生、保護者とも70%が将来働くことの気がかりが「ある」

図23 高校生が将来働くことについて気がかりなことがあるか （全体／単一回答）

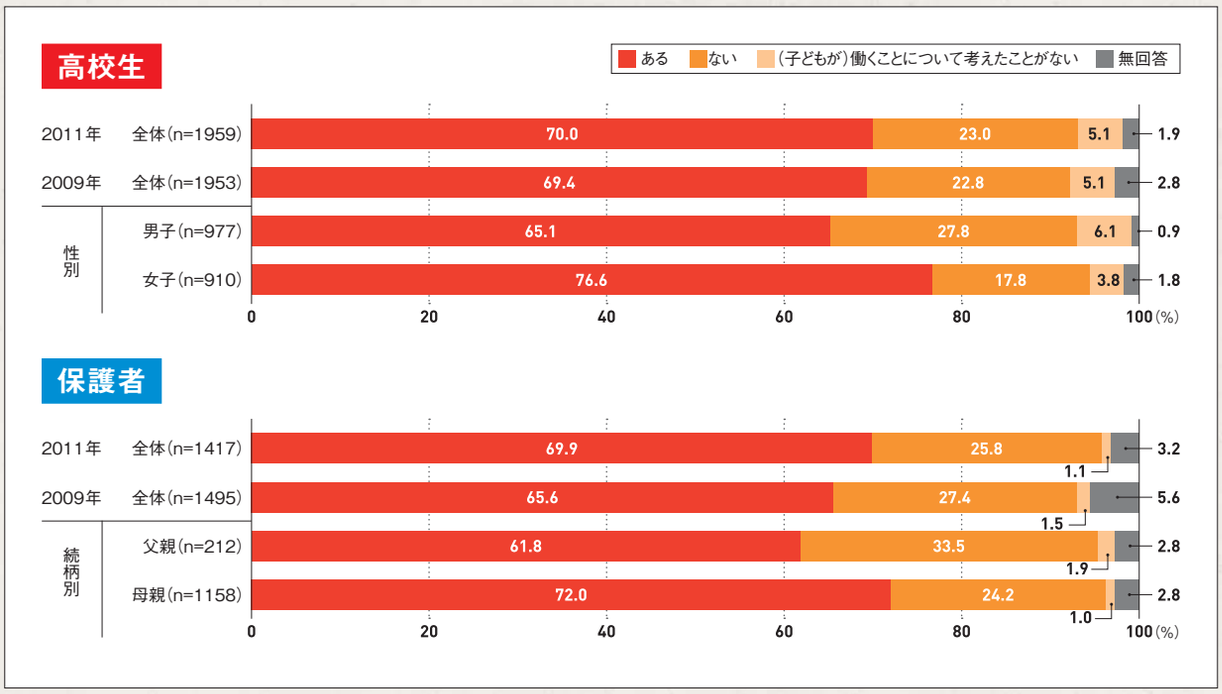
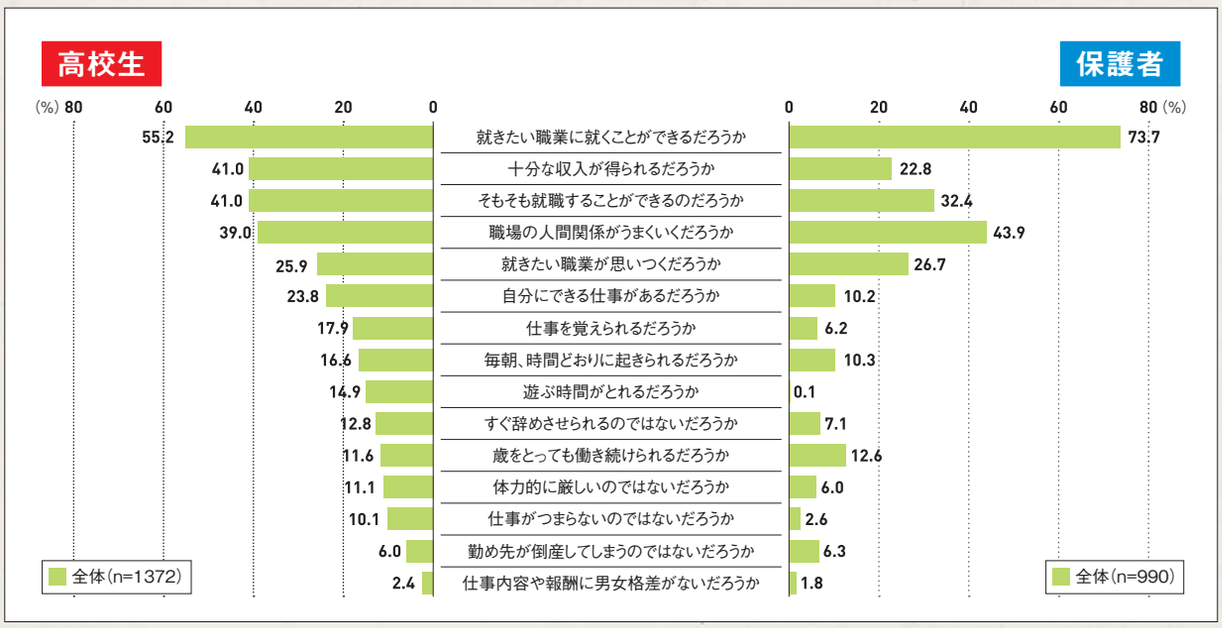


図24 働くことについてどんなことが気がかりか （気がかりなことが「ある」の回答者／複数回答）



高校生が将来働くことについて気がかりなことがあるか質問した（図23）。高校生で気がかりが「ある」は09年から変動なく70%。女子は男子よりも「ある」が多く、8割近くを占める。

一方、保護者に対して子どもが働くことについて気がかりがあるか尋ねると、「ある」割合は09年からやや増加し、高校生と同程度の70%。05年（61%）以降、上昇傾向が見られる。続柄別では父親より母親が多い。

就きたい職業に就けるかが最大の気がかり

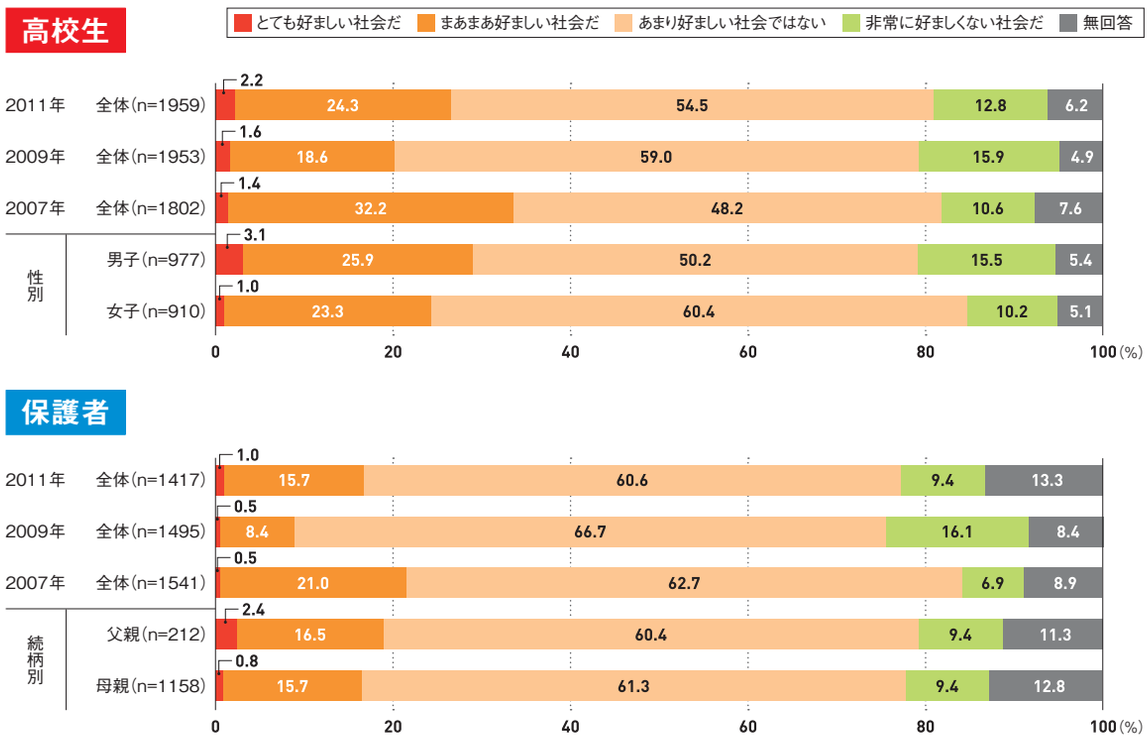
高校生・保護者それぞれに気がかりなことをすべて選んでもらったところ（図24）、いずれもトップは「就きたい職業に就くことができるだろうか」で高校生55%、保護者74%。高校生は次いで「十分な収入が得られるだろうか」「そもそも就職することができるだろうか」が4割と、就職できるか、収入を得られるかが気がかりの上位に挙がった。さらに、高校生、保護者とも「職場の人間関係がうまくいくだろうか」が約4割に達している。

13

未来社会への認識

高校生の67%、保護者の70%がこれからの社会は「好ましくない」

図25 これからの社会は高校生にとって好ましいか（全体／単一回答）



●未来社会についてそう思う理由【高校生】

■とても好ましい

●好ましくなくても、気持ちだけは前向きでいたい［愛知/女子/就職］
●自分しだいで何でもできるから［新潟/女子/大短］

■まあまあ好ましい

●自分のやりたいことができて、いろんな面で便利なものがある［佐賀/女子/大短］
●何を言ったところでその社会で生きていくのだから［鳥取/男子/大短］
●政治はきちんとしてないが、特に不満はない［茨城/男子/大短］
●他国より平和だから［佐賀/男子/大短］
●不況だけど、働く場は多種あるから［佐賀/男子/大短］

■あまり好ましくない

●不景気で生活が苦しくなりそうだから［佐賀/男子/大短］
●就職難という言葉が目立ち将来に不安を感じる［北海道/男子/就職］
●今の日本の政治に怒りを抱いているから［東京/男子/就職］
●便利な暮らしになっている半面、自然や環境の問題が増加しているから［青森/女子/就職］

■非常に好ましくない

●現在はとても不況で就職先がみつかるか、とても不安［新潟/女子/専門］
●高齢社会で若者の負担が大きいから［北海道/男子/大短］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

●未来社会についてそう思う理由【保護者】

■とても好ましい

●生き方ひとつで好ましい社会だと思えるはず［大阪/父親/女子］

■まあまあ好ましい

●どんな社会であっても適応できる柔軟性と強さが必要であると考えている［北海道/母親/女子］
●自分のやる気しだいで、どうにでもなるから［佐賀/母親/女子］
●平和で努力すれば幸せになれる社会だから［新潟/母親/男子］
●選択肢が多い。復興に向けて前進する可能性がある［茨城/母親/女子］

■あまり好ましくない

●政治、経済ともに不安定で、将来に夢を抱きにくい［青森/父親/男子］
●経済面・生活水準などの格差が大きいから［愛知/父親/男子］
●若い世代の人口が減っているので何かと税金など負担が多くなるでしょう［北海道/母親/女子］
●就職したくても希望どおりできるのは難しい［青森/母親/男子］
●人間関係が難しくなってきている［茨城/母親/男子］

■非常に好ましくない

●高齢化、少子化が進み、生活しづらい世の中［北海道/母親/女子］
●就職先が少ない。将来の安定した雇用が望みにくい［大阪/父親/男子］
●大人でも大変なのに、明るい未来、将来を想像できない［青森/母親/男子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子どもの性別］

これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか質問した（図25）。前回09年調査時は〝リーマンショック〟による景気後退の影響によってか高校生、保護者とも「とても好ましい」「まあまあ好ましい」の合計が大幅に減少したが、今回調査結果では増加に転じた。高校生27%、保護者17%と、09年と比較すればこれからの社会を好ましく見る人が多くなる結果に。ただし、「あまり好ましくない」「非常に好ましくない」の合計は高校生67%、保護者70%と、依然として厳しい認識のほうが断然多い。

「好ましい社会だ」が前回よりも増加

未来社会についてあなたがそう思う理由を尋ねると、高校生と保護者で似た傾向が見えた（上記コメント）。「好ましい」という人には「気持ちだけは前向きで」など好ましくはない現状に適応する態度や、「自分次第」といった意欲が見られた。「好ましくない」という人は、「不景気」「就職先がない」など経済不況や就職難、政治状況を嘆くコメントが大半を占めた。

14 保護者によるアドバイスの困難

保護者の72%が進路選択についてアドバイスが「難しい」

図26 子どもの進路選択についてアドバイスを難しいと感じるか （全体／単一回答）

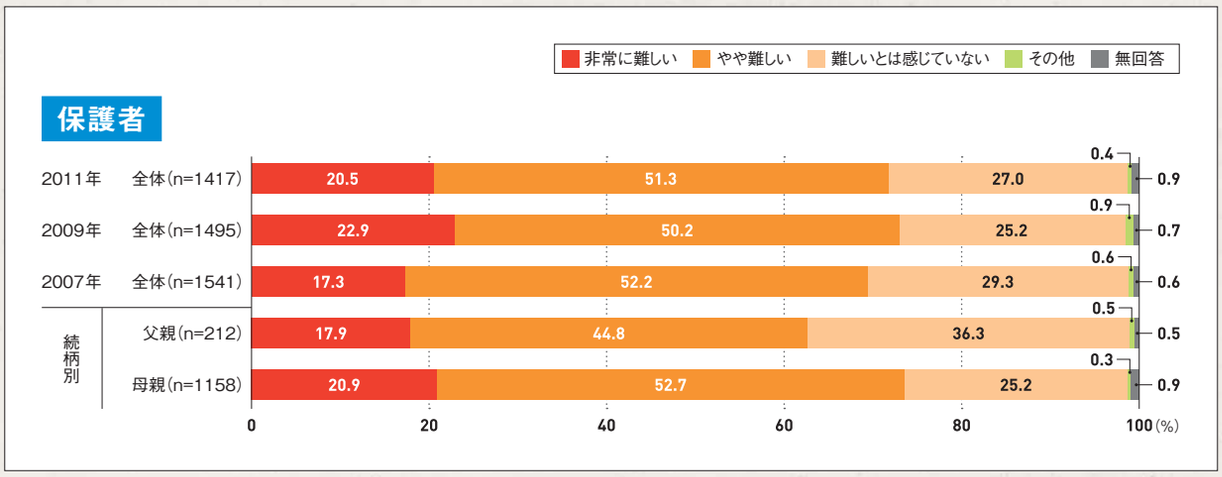
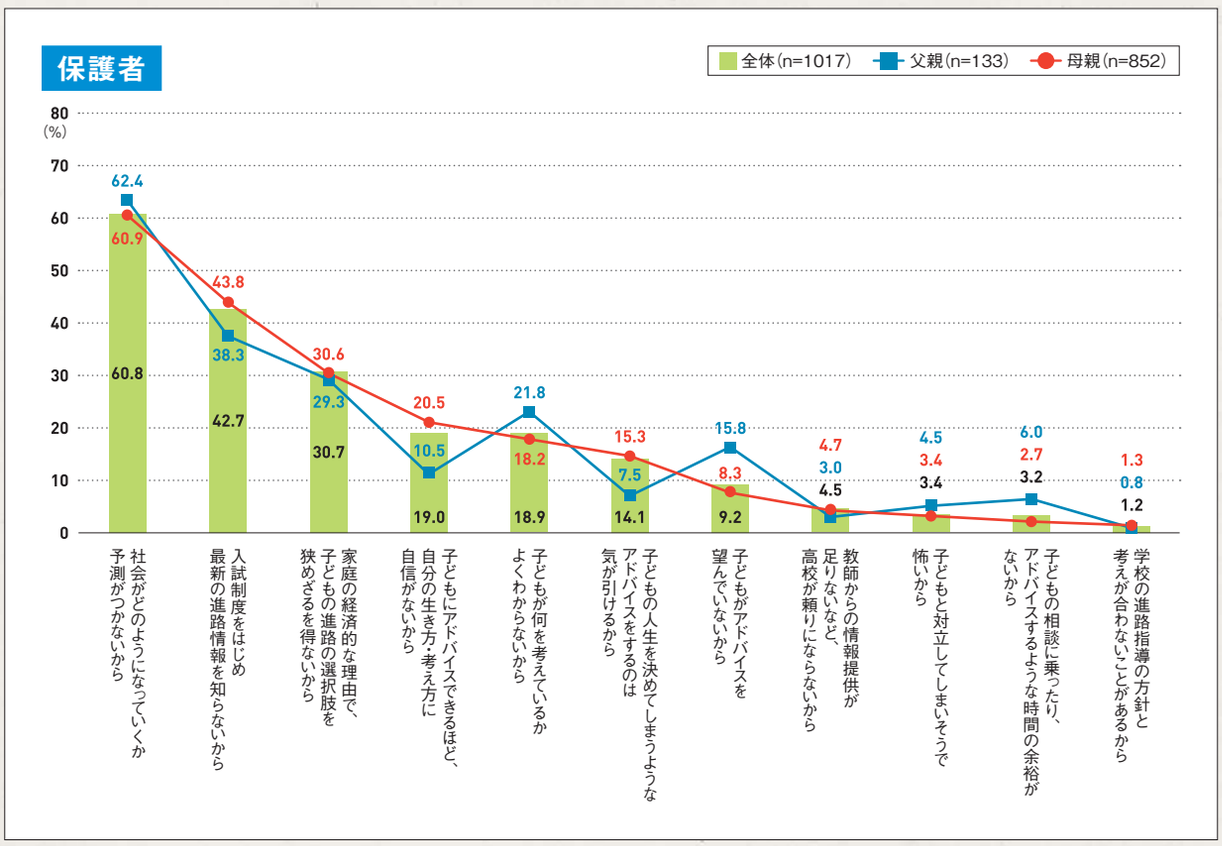


図27 子どもの進路選択についてアドバイスが難しいと感じる要因 （「非常に難しい」「やや難しい」の回答者／複数回答）



14pで保護者に子どもの進路選択についてのアドバイス状況を尋ねたが、その難しさの程度も質問した。「非常に難しい」が21%、「やや難しい」を合わせると7割を超えた（図26）。05年（67%）以降、増加傾向といえるかもしれない。

アドバイスの難しさは社会予測の難しさ

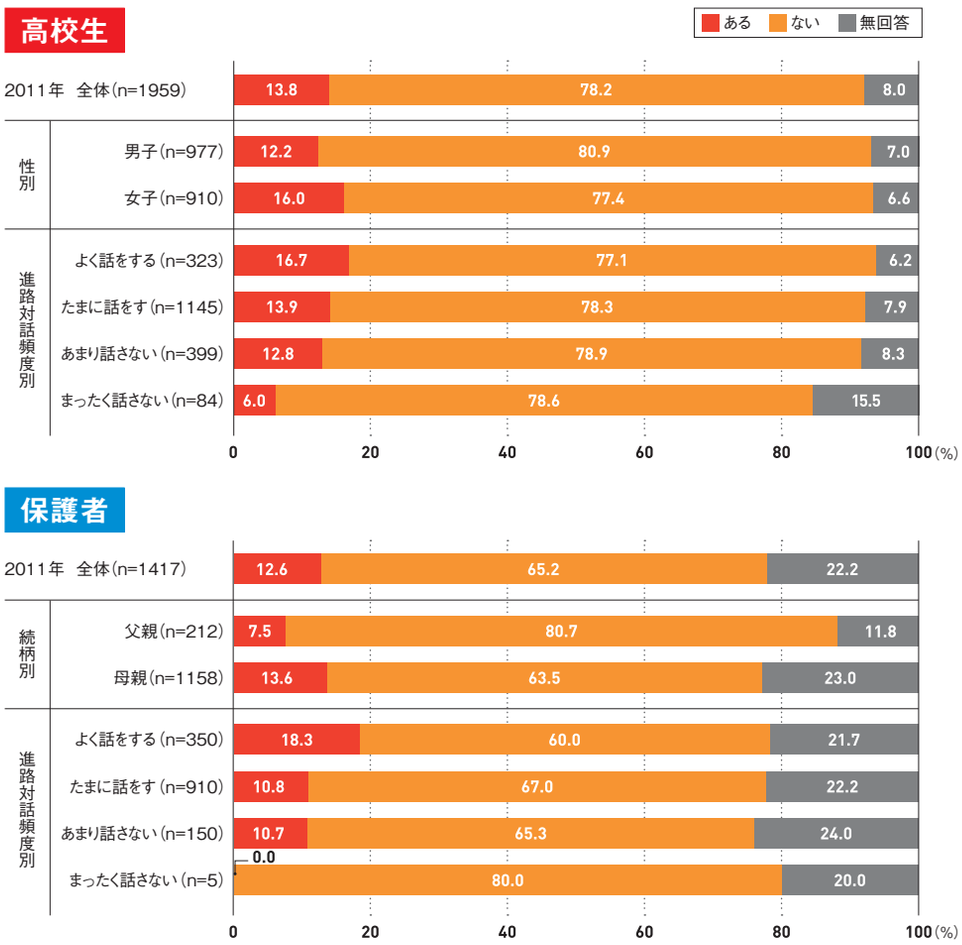
アドバイスが難しいと回答した保護者にその要因を上記からすべて選んでもらったところ、「社会がどのようになっていくか予測がつかないから」が最多の61%（図27）。父母で差があるところを挙げると、母親が父親より高いのは「子どもにアドバイスができるほど自分の生き方・考え方に自信がないから」「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引けるから」などで、アドバイスへの自信のなさがうかがえる。一方、父親は「子どもが何を考えているかよくわからないから」「子どもがアドバイスを望んでいないから」が比較的高く、子どもとの関係性に課題があることをうかがわせる。

Ⅳ 震災・原発事故の影響

15 震災・原発事故と進路意識

高校生、保護者とも「毎日を大切に生きたい」が増加

図28 震災・原発事故で進路や将来の考え方に変化があったか （全体／単一回答）



※上記で「ある」と回答した人たちのフリーコメントの代表的なもの（数値は「ある」回答者の総コメント数における%）

高校生

	全体	性別	
		男子	女子
社会や人の役に立ちたい	25.9	20.7	28.7
毎日を大切に生きたい	11.6	6.3	16.1
就職がますます難しくなった	8.5	9.0	8.4
地元を離れたくない・災害が起きそうな場所へは行きたくない	5.0	4.5	5.6
命の尊さを考えるようになった	5.0	7.2	3.5
ボランティアに参加したい	3.1	2.7	3.5
人と人のきずな、助け合いを大事にしたい	3.1	4.5	2.1
しっかり勉強して就職しようと思った	2.3	1.8	2.8
医療に携わりたい	1.9	0.0	3.5
自分にできることはやる	1.9	2.7	1.4

保護者

	全体	続柄別	
		父親	母親
地元で進学・就職してほしい	33.1	20.0	33.3
毎日を大切に生きてほしい	10.2	6.7	10.2
社会や人の役に立つ人であってほしい	8.4	13.3	8.2
あたりまえの日常に感謝してほしい	7.2	6.7	7.5
家族を大切にする・してほしい	3.6	0.0	4.1
自分の頭でしっかり考えて行動してほしい	3.6	0.0	4.1
興味のあることにどんどん挑戦してほしい	3.0	0.0	3.4
就職がますます難しくなった	3.0	0.0	3.4
命の尊さを知ってほしい	3.0	20.0	1.4
手に職をつけてほしい	2.4	0.0	2.7

高校生と保護者に3月の東日本大震災および原発事故を思い浮かべてもらい、それにより進路や将来の考え方に変化があったかどうかを尋ねた（図28）。すると、高校生の14%、保護者の13%が変化が「ある」と回答。

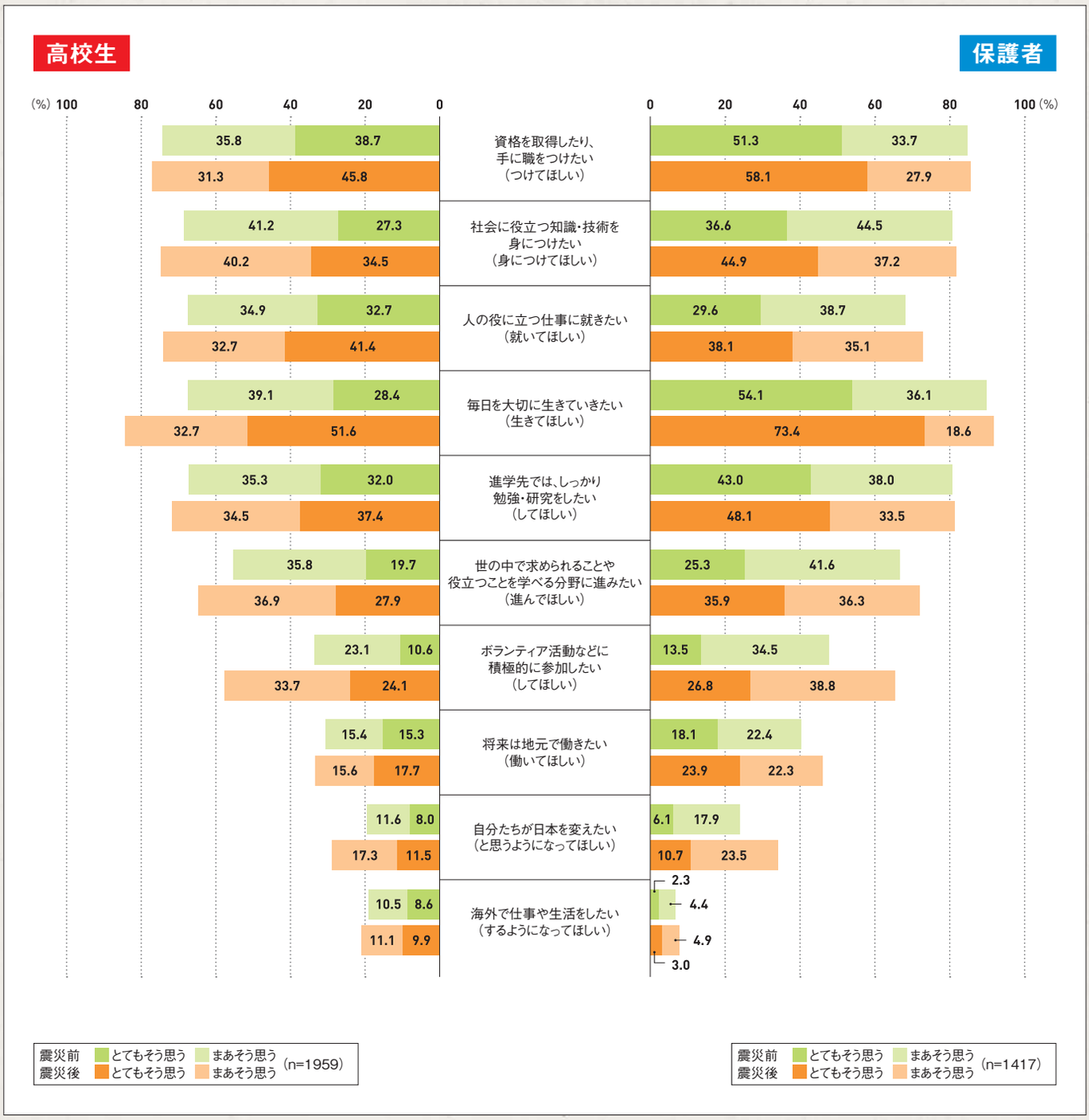
進路対話頻度別（10p図1参照）にみると、高校生、保護者とも、親子間の対話が多いほど「ある」が高まる傾向がみられた。

地元で進学・就職してほしいと願う保護者が増加

また、「ある」と回答した人たちに具体的にどんな変化があったかを自由に書いてもらい、それを集計したところ、上表のような結果となった。

高校生のコメントで最も多かったのは「社会や人の役に立ちたい」。そのほか「毎日を大切に生きたい」「命の尊さを考えるようになった」など比較的頼もしく、前向きなコメントが多い印象。一

図29 震災・原発事故の発生前後での考え方の変化 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の割合（全体／各項目単一回答）



方、保護者のコメントで突出していたのは「地元で進学・就職してほしい」。震災・原発事故で近くにいてほしいと願う保護者が増えたようだ。

ボランティア活動への意欲が高まる

さらに、上記10項目について、震災・原発事故発生前後での考え方の変化を尋ねた（図29）。高校生は震災前、「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計の最多は「資格を取得したり、手に職をつけたい」だった。ところが震災後は「毎日を大切に生きていきたい」がトップに。内訳では、「とてもそう思う」が28%から52%へと大きく上昇した。一方の保護者は、「毎日を大切に生きてほしい」が震災前後ともトップだが、やはり「とてもそう思う」は54%から73%へと増加した。

また、高校生、保護者いずれも「ボランティア活動などに積極的に参加したい（してほしい）」が震災後に大幅に増加。「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が高校生は34%から58%へ、保護者は48%から66%へとアップした。また震災後は高校生、保護者とも、全項目で「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が増えている。

V 保護者の動きと高校への要望

16 進学情報の必要性・入手方法

進学検討で重要な情報は「進学費用」「職業との関連」「入試制度」

図30 保護者は進学に際してどんな情報が重要か （進学希望／複数回答）

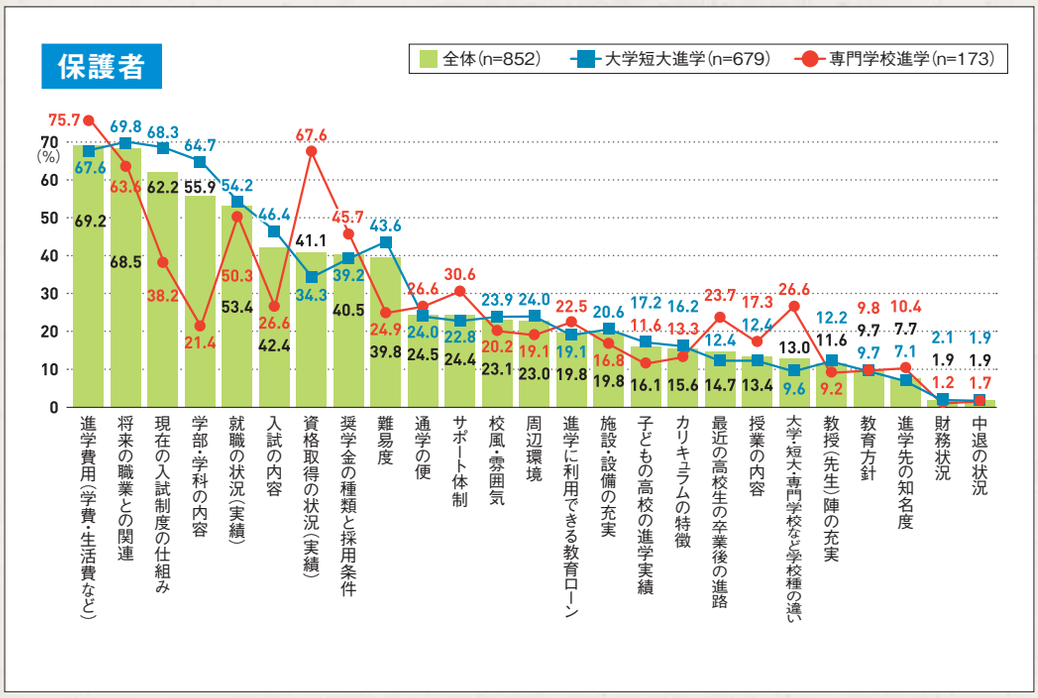
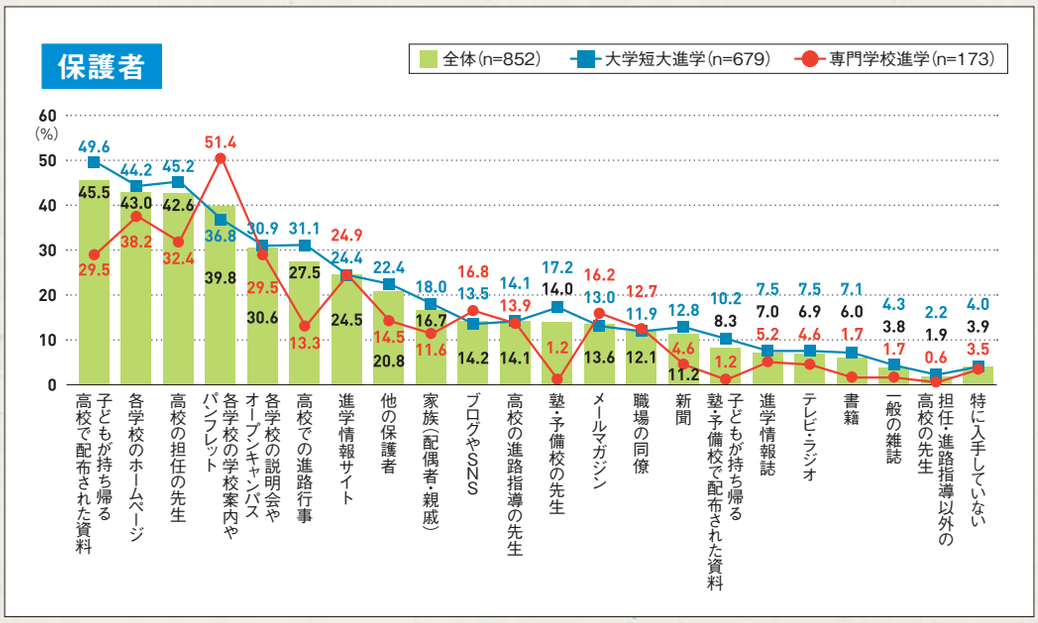


図31 保護者は進学情報をどんな方法で入手しているか （進学希望／複数回答）



子どもに進学を希望する保護者に重要な情報をすべて選んでもらったところ、「進学費用」「将来の職業との関連」「現在の入試制度の仕組み」が6割を超え上位に挙がった（図30）。進路別に見ると「進学費用」「資格取得の状況」は専門学校進学希望者の重視度が高い。大学短大進学希望者は「入試制度」「学部・学科の内容」「入試の内容」「難易度」が比較的高かった。

高校が最大の情報源だがネットからの情報が増加

また、進学に関する情報の入手方法も同様に質問したところ、「高校で配布された資料」「各学校のホームページ」「高校の担任の先生」「学校案内やパンフレット」が上位に（図31）。高校の情報提供のほか、各学校が発信する情報の活用も活発だ。なお「ホームページ」「進学情報サイト」「ブログ」などネットからの情報収集は前回調査から大幅に増加した。

「子どもに合う学校を調べたことがある」42%、「今後調べたい」37%

図32 保護者は子どもの進路選択行動にどのようにかかわっているか （進学希望／各項目単一回答）

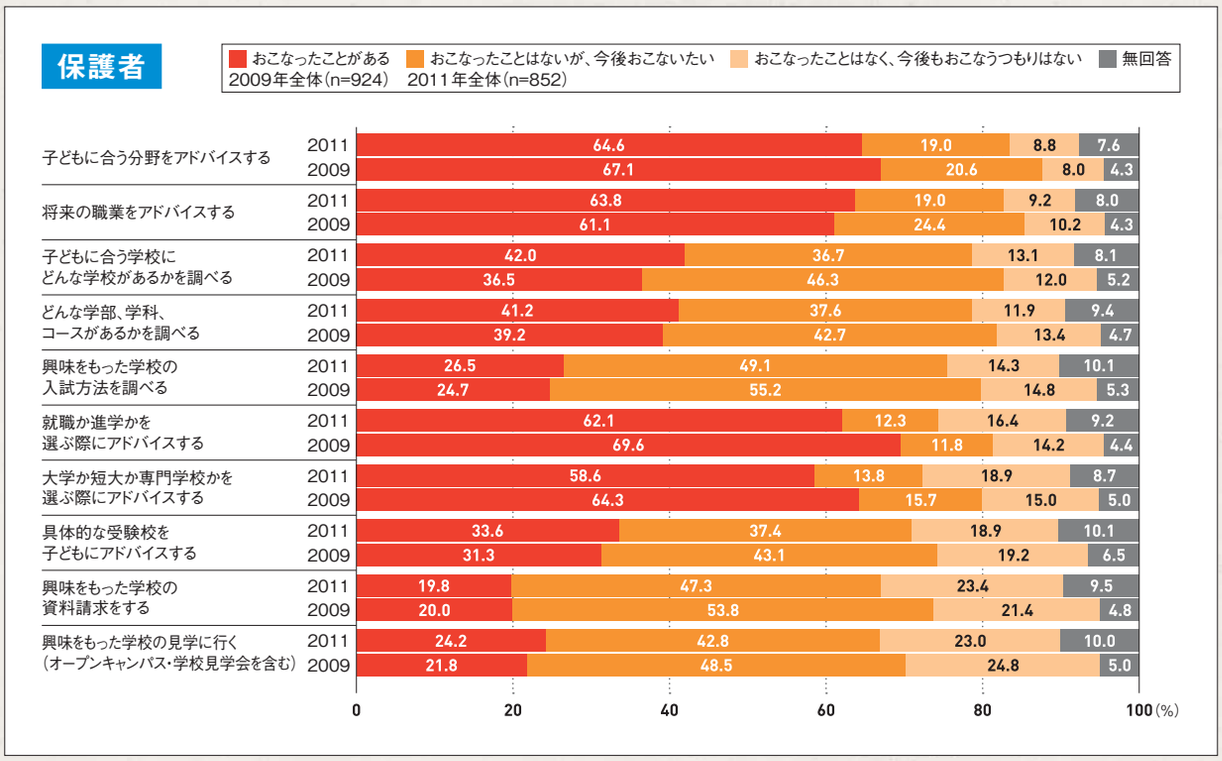
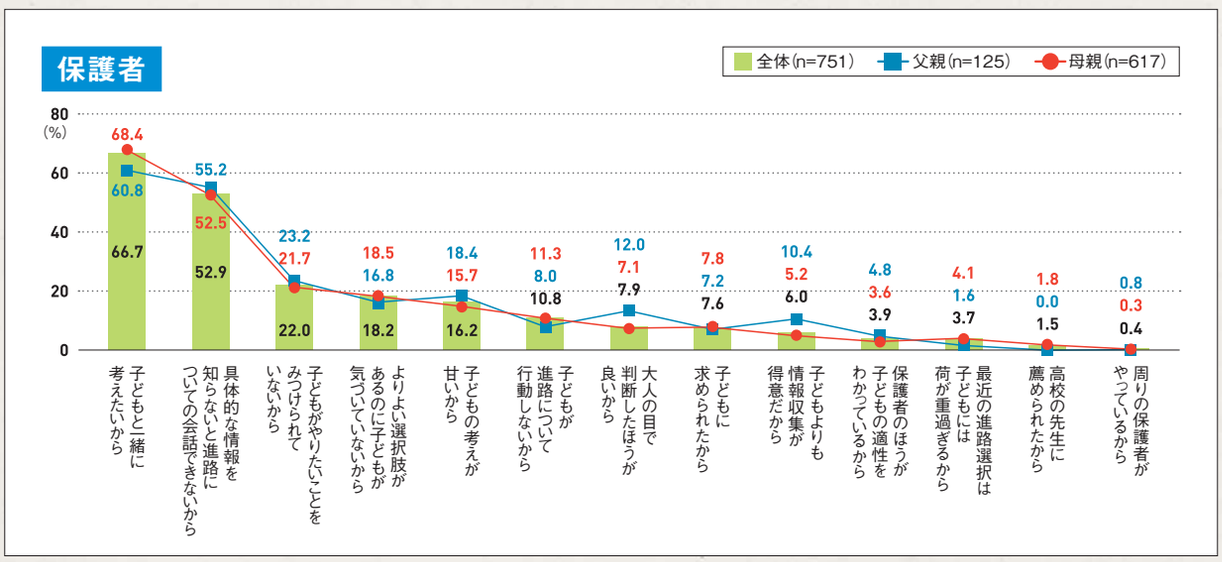


図33 保護者が具体的にかかわる理由 （進学希望かつ図32のいずれかを「おこなったことがある」「今後おこないたい」の回答者／複数回答）



子どもの進路選択行動（上記10項目）に保護者はどうかかわっているか、今後どうしたいかを尋ねた（図32）。「おこなったことがある」のトップは「子どもに合う分野をアドバイスする」で65%。「おこなったことはないが、今後おこないたい」のトップは「興味をもった学校の入試方法を調べる」で49%。

全体を見渡すと、「おこなったことがある」のはアドバイスをする類のもの、「今後おこないたい」のは調べる類のものであることがわかる。10項目ともその2つの合計値は概ね7割を超えており、保護者の協力的、積極的な姿勢が伝わってくる。

「子どもと一緒に考えたいから」積極的にかかわる

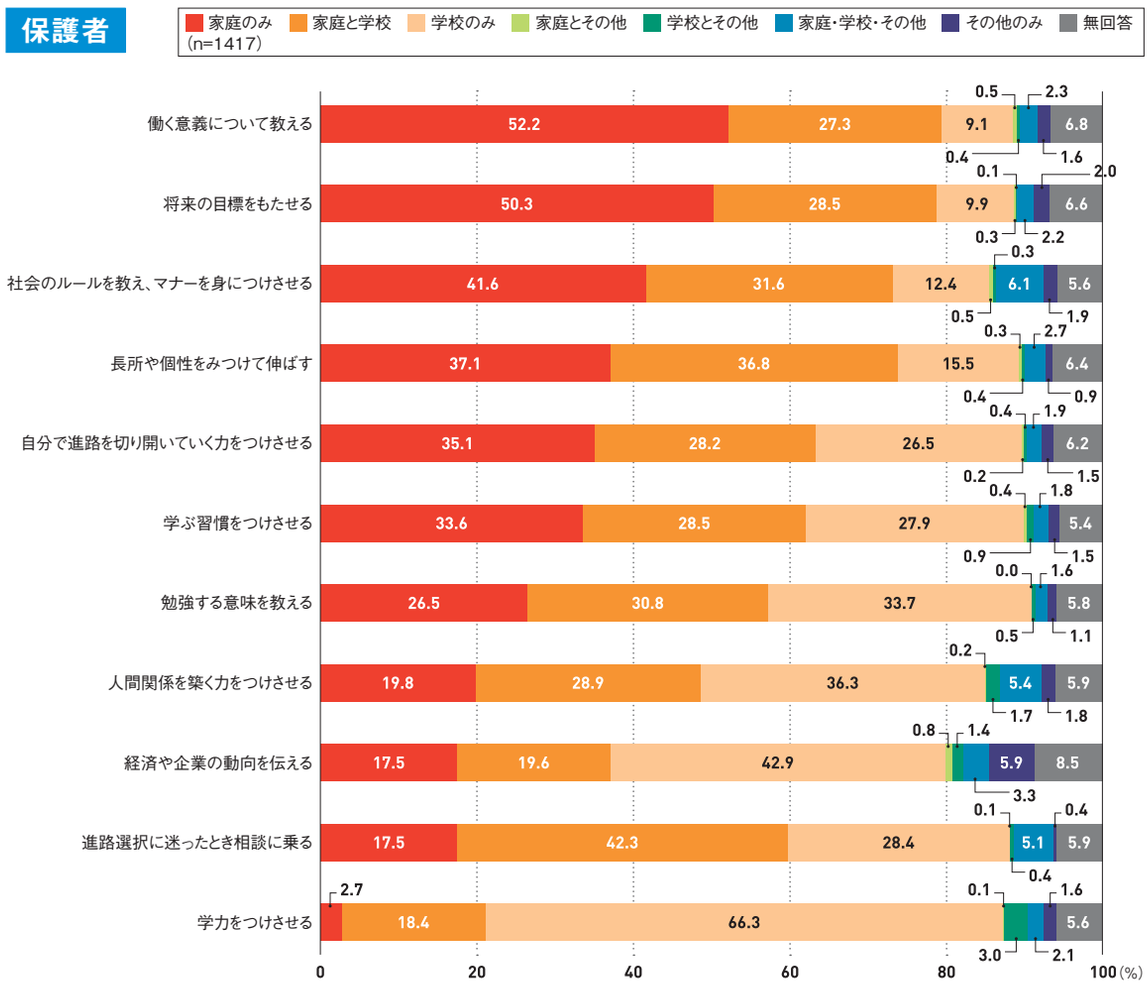
こうした進路選択行動に保護者がかかわる理由としては、「子どもと一緒に考えたいから」「具体的な情報を知らないと会話ができないから」が上位に挙がった（図33）。子どもに課題があると考える保護者よりも、親子が協力し合って子どものより良い進路を実現したいと考える保護者のほうが多いようだ。

18

家庭と学校の役割に関する認識

「学力をつけさせる」「経済や企業の動向を伝える」のは学校に期待

図34 高校生に対する役割 （全体／各項目単一回答）



●今までに子どもが受けてよかった進路指導【保護者】

●学校が主催してその道のプロ（職業人）の講演をしてくれたこと（生徒向け）[北海道/父親/男子]
●先輩（卒業生）の進路や受験等の経験談を直接聞く機会を与えてもらったこと等（同じ教科書を使って学んだ先輩の勉強方法など）[新潟/母親/女子]
●職場体験したことによって志望する大学を意識するようになった [青森/母親/女子]
●月に何回か配られる“お便り”はとてもよい（進路のことも具体的にあるし、勉強の方法もあって）[新潟/母親/女子]
●進学や職業の現状を話してくださる講師の方の話を聞く機会を設けてくださり良かったです [青森/父親/女子]
●担任の教師より具体的に職業選択や、具体例を示していただいた個人面談 [愛知/母親/女子]
●現状で満足することなく目標は高くもてと指導してくれたこと。過去の実体験をもとに本人に納得いくように指導してくれた [北海道/母親/男子]
●親子ともに個人的に進路指導室に通わせてもらい、先生と直接話をさせていただけるのはとても心強いし、ありがたいと思います [愛知/母親/男子]

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は [都道府県/続柄/子どもの性別]

高校生の教育に関する上記11項目について、「家庭」「学校」「その他」のうちの誰の役割なのか、保護者に該当すると思うものすべてを選んでもらった（図34）。「家庭のみ」の役割が多かったのは「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」で、過半数の回答があった。また、「社会のルールを教え、マナーを身につけさせる」も家庭の役割という認識が強かった。

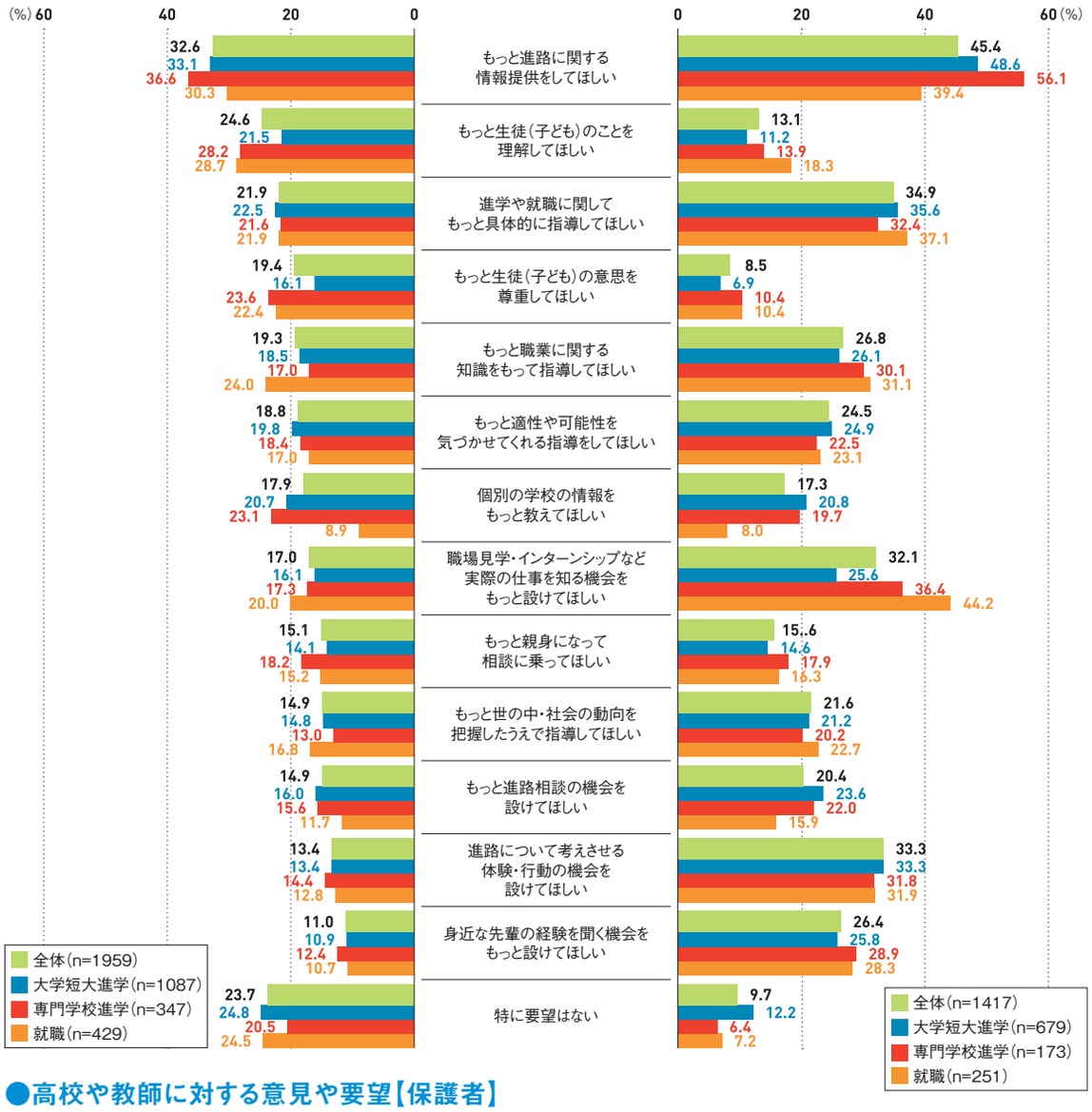
高校生の「相談に乗る」のは家庭と学校両方の役割

「家庭と学校」両方が役割を担うべきものとしては、「進路選択に迷ったとき相談に乗る」「長所や個性をみつけて伸ばす」の値が高く、これらについては学校との連携に期待していることがわかった。

一方、「学校のみ」の役割は「学力をつけさせる」が7割近くを占める。次いで「経済や企業の動向を伝える」「人間関係を築く力をつけさせる」も4割前後と多く、学力・知識にとどまらない指導や育成を強く期待している様子がうかがえる。

高校生・保護者とも「もっと情報提供をしてほしい」が要望のトップ

図35 高校の進路指導にどのようなことを要望するか（全体／複数回答）



●高校や教師に対する意見や要望【保護者】

●もっと、個人に合った学習指導をしてほしい［茨城/母親/男子］

●もっと子どもたちとコミュニケーションをとってほしい。今、何を思っているのかもっと知ってほしい［愛知/母親/男子］

●先生自身が先生以外の職業を体験して人としての見聞を広げてほしい［茨城/母親/男子］

●弱点を克服するアドバイスを的確にしてほしい［佐賀/父親/女子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子どもの性別］

高校の進路指導についての要望を高校生、保護者それぞれに上記からすべて選んでもらった（図35）。高校生、保護者とも回答トップは「進路に関する情報提供をしてほしい」。

高校生は次いで「生徒のことを理解してほしい」「進学や就職に関して具体的に指導してほしい」「生徒の意思を尊重してほしい」が多く、自分自身の意思を尊重したうえで進路指導してほしいという要望が上位に挙がった。「理解」や「尊重」を求める傾向は専門学校進学希望者や就職希望者で特に強い。

インターンシップなど具体的な「体験」「行動」も要望

一方、保護者においては「進学や就職に関して具体的に指導してほしい」「進路について考えさせる体験・行動の機会を設けてほしい」「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい」と続き、いずれも3割以上と高校生に比べスコアが高い。保護者は具体的な「体験」「行動」を伴う進路指導を要望する傾向が見られる。

20

キャリア教育の認知と期待

「キャリア教育」の認知率は34%に上昇

図36『キャリア教育』という言葉を聞いたことがあるか（全体／単一回答）

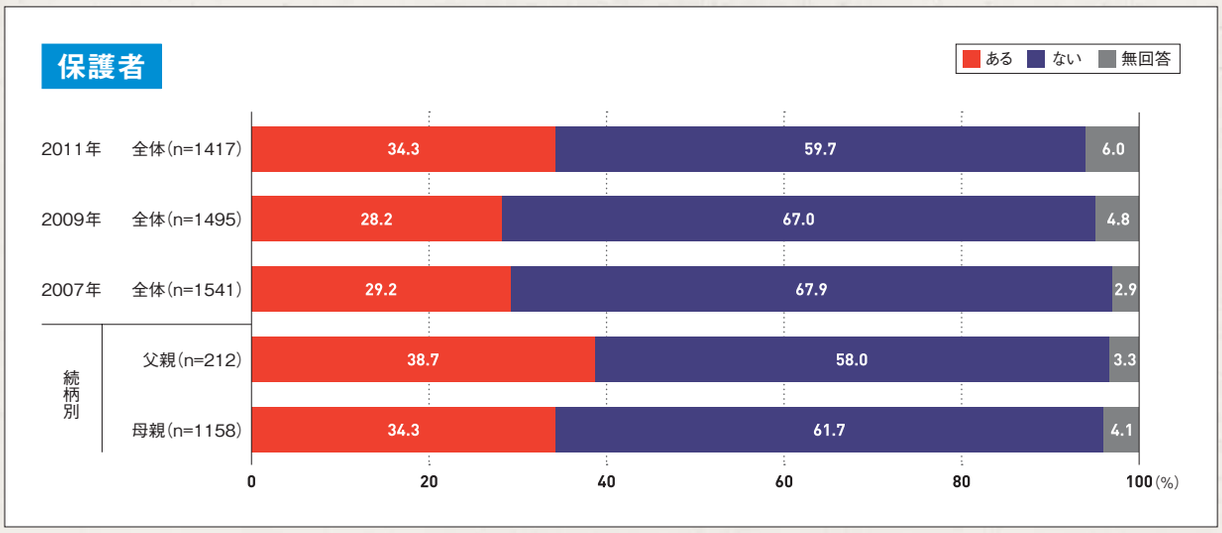
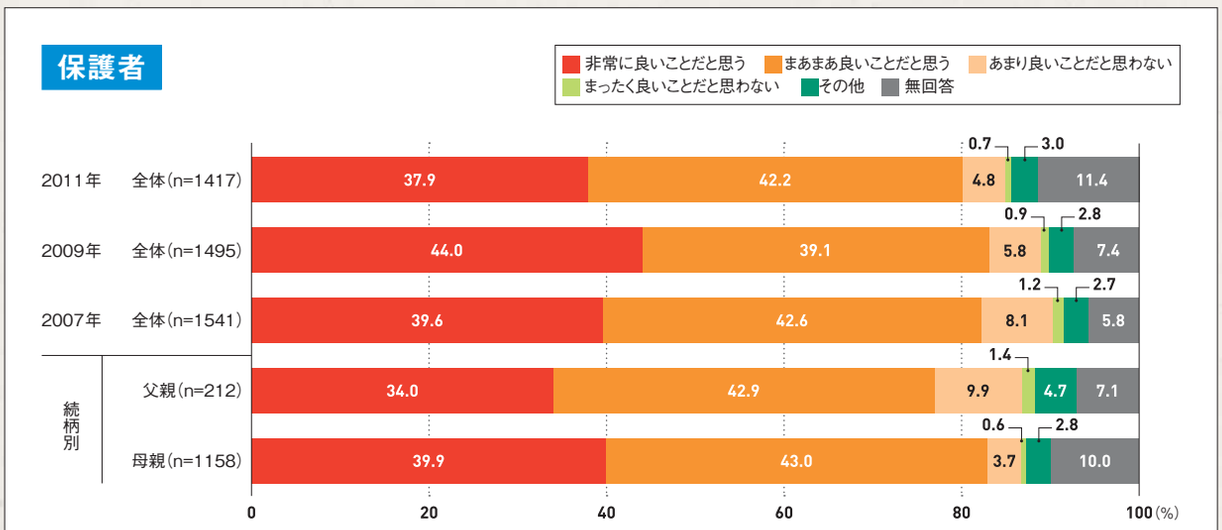


図37『キャリア教育』が推進されていくことをどう思うか（全体／単一回答）



※『キャリア教育』とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」という定義を提示した

●キャリア教育に対する意見や要望【保護者】

●本人が自分の適性について考える機会となると思う［佐賀/父親/男子］
●もっと具体的な教育指針を示して、親にも子どもにもわかるように指導してほしい［佐賀/母親/男子］
●本来の目的を十分に理解した教育をしてほしい［大阪/父親/男子］
●生徒によると思うので、完全にできるか疑問です［青森/母親/女子］
●「職業的自立」が就活にならないことが大切と思う［新潟/母親/男子］
●「官僚のエリート」をイメージするため、抵抗感のある言葉です［茨城/母親/男子］
●それによって、子どもがいろいろな可能性をみつけてくれるといいと思う［愛知/母親/男子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子どもの性別］

保護者の『キャリア教育』という言葉の認知率は07～09年は3割弱と横ばいの推移だったが、今回調査結果では34%に増加（図36）。続柄別に見ると父親の認知率が母親に比べ高く約4割だった。

8割がキャリア教育は「良いことだと思う」

次にキャリア教育の定義を提示したうえで、キャリア教育が推進されていくことをどう思うか尋ねた（図37）。「非常に良いことだと思う」は38%、「まあまあ良いことだと思う」を合わせると「良いと思う」は80%。続柄別に見ると、父親よりも母親のほうが評価が高い。

キャリア教育に対する意見や要望として、さまざまなコメントが保護者から寄せられた（上記コメント）。

「自分の適性を考える機会となる」「子どもが可能性をみつけてくれるといい」といった期待感がある半面、「官僚のエリートをイメージする」といったマイナスイメージや、「完全にできるか疑問」など実現を不安視するコメントも見られた。